ライオン誌（毎月20日発行）第55巻第7号 2012年12月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

LION

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP JANUARY 2012

1

今月のTHEME

福岡フォーラム

LION MAGAZINE IN JAPAN
January 2013, Vol.55 No.7

We Serve CONTENTS

2013年1月号
●表紙シリーズ
日本の風景 34
滋賀県高島市
白鬚神社
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Wayne A. Madden
Lions Clubs
International President

ライオンズの精神は永遠に新しく

新聞を広げれば、気持ちが沈まない日はありません。耳にするのは殺人、戦争、貧困といったニュースばかりです。しかし、人間の精神には常に不正や逆境に打ち勝つ力があり、最悪の状況の中でも心に輝きを見いだすことが出来ます。ある少女の言葉に耳を傾けてください。

「自分でも不思議なのは、私がいまだに理想の全てを捨て去ってはいないという事実です。だって、どれもあまりに現実離れし過ぎていて到底実現しそうもない理想ですから。にもかかわらず私はそれを持ち続けています。なぜなら今でも信じているからです。たとえ嫌なことばかりだとしても人間の本性はやっぱり善なのだと」

そう、これは偉大なるアンネ・フランクの言葉です。

『ライオン』誌北米版12月号は特別号で、人間の精神とライオンズの精神を取り上げています。私は世界中のライオンズ・メンバーと出会ってきましたが、そのほとんどはどこにでもいるような人々です。おしゃべり好きな人も、物静かな人もいます。慎重に計画する人もいれば、すぐに飛び込む人もいます。彼らに共通しているのは奉仕への欲求であり、世界をより良い場所に変えたいという願いです。それはほとんど万人の願いであると、私は信じています。だからこそ、私たちは幸いにもライオンズのような組織を結成し、他者を支援したいという根源的な欲求を満たすことが出来るのです。

多くの人々がこれから年末年始の休暇を迎えると思いますが、それは自分がいかに恵まれているかを振り返り、向上への決意を新たにする時期でもあります。他者に奉仕する機会に恵まれたことに感謝しましょう。テレビのニュースを見て、将来を悲観すべきではありません。私たちは、奉仕の使命を深く信じるライオンズの仲間に囲まれています。イギリスの詩人ジョン・キーツは、「風景はすばらしいが、人間はそれ以上にすばらしい」と言いました。ライオンズの世界的なコミュニティーに目を向ければ、この言葉が真実であることは明らかでしょう。

ライオンとしても、またご家庭の中でも、2013年には皆さん一人ひとりの夢と希望が実現されますよう、妻リンダと共にお祈りしています。

Wayne A. Madden

2012-13年度国際会長
ウェイン･A･マデン

THEME

51st. OSEAL Forum in Fukuoka

福岡フォーラム

11月8日～11日、第51回OSEALフォーラムが福岡市で開催された。
アジアのライオンズ約2万人が集った開会式や、
フォーラム会場の模様を写真中心で伝える他、
日本語セミナーとミニ・フォーラムの内容をリポート。

アジアの中核都市・福岡で、友好親善と研修のフォーラム

福岡市で開かれた第51回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムは、OSEAL地域から１万7664人の登録者を集めた。地元日本からは全体の8割に上る1万4222人、韓国から2050人、台湾から946人の登録があった。

開会式の会場前で行われたフード･フェスティバル

開会式でフォーラム開会を宣言する不老安正フォーラム組織委員長（❶）、歓迎の言葉を述べる小川洋福岡県知事（❷）と高島宗一郎福岡市長（❸）、ウェイン・マデン国際会長のスピーチ（❹）。開会に先立つ各国代表の入場には、3日後に初日を控えた大相撲・伊勢ケ浜部屋から4力士が登場、マデン国際会長夫妻の先導役として新横綱日馬富士が姿を現すと大きな歓声が上がった

❶

2

レディース・プログラムと地球環境セミナーは一般市民にも公開して行われた。レディース・プログラムでは歌手の由紀さおりさんと地元幼稚園児たちが合唱。千人収容の会場に立ち見があふれ、入場制限を余儀なくされた。パネル・ディスカッションでは「女性ライオンの思い」をテーマに4人の女性会員がパネリストとなり、それぞれの体験を基に、女性会員増強に向けての抱負と期待を語り合った（❶❷）

YCEセミナーは300人以上が参加し、補助椅子を出すほどの大盛況。事例発表や意見交換の後、フォーラムでのYCE会議、OSEALとしてのYCEコーディネーター設置などが提案された（❸）

地球環境セミナーは元国連環境計画親善大使の加藤登紀子さんを総合司会に迎え、ネパール、インドネシアと地元福岡など国内外の技術者や研究者ら5人が環境改善事業の事例を発表した（❹）

❸

4

9日と10日には本部ホテルで、国際会長と地区ガバナーの会議、第1副地区ガバナーの会議（❶）、国際会長とクラブ会長の会議（❷）、国際会長テーマ・セミナー、LCIFセミナーなど数多くの会議やセミナーが開かれた。9～11日の3日間は毎朝、国際会長や国際理事らも出席して協議会議長と地区ガバナーの会議が開かれた（❸）。OSEAL地域に関係する事項を検討する会議だが、事前の議案提出がなく、第1回と第2回は出席者の紹介とあいさつにほとんどの時間が費やされた。第3回ではカジット・ハバナンダ元国際会長から「長年この会議に出席しているが何の変化もない。議長と地区ガバナーにはフォーラム規則をよく理解した上で臨み、変化を起こしてほしい」とコメントがあり、佐藤精一郎330-B地区ガバナーから「形式的な会議の運営方法を改めるべき」との意見が出されて、次回シンガポール・フォーラムに向け検討されることになった

3

11月9日・博多港中央ふ頭の広場、フード・フェスティバル。開会式会場マリンメッセ福岡に隣接する広場は、大勢のライオンズでにぎわった。とんこつラーメンに五島うどんなど、九州各地の味覚や品物を販売する80のテントが並び、地元自慢の味を提供するライオンズクラブの出店もあり、中には行列が出来る店も。また、フォーラム組織委員会は東日本大震災被災地の物産を扱う店も出し、担当の福岡県・つくしライオンズクラブは宮城県・塩釜ライオンズクラブを通じて仕入れた海産物や地酒を販売しながら支援を呼び掛けた。被災地支援の企画は開会式にも盛り込まれ、岩手県の大船渡屋台村と中継を結び、ウインクン・タムLCIF理事長と大船渡のメンバー2人がライオンズによる支援と復興の状況を語り合った。

初めてフォーラムに参加したライオン市ノ渡祥廣（青森県・野辺地ライオンズクラブ会計／31歳）は、ライオンズの国際性を感じると共に、開会式で聞いたマデン国際会長のスピーチに変化への期待を抱いたと言う。

「会長の言葉に、ライオンズは変わっていこうとしているのだと心強く思いました。ただ、会長が登場する頃には会場は空席ばかりでしたね。隣りに座った台湾のライオンと交流したかったのですが、すぐいなくなってしまい残念でした」

開会式は太鼓集団TAOによる大迫力のパフォーマンスに始まり、九州交響楽団の演奏、歌手の加藤登紀子さんの歌と一級のエンターテインメントが華を添えたが、例年同様に参加者の多くが早々に退席してしまった。参加意識の低さを嘆くばかりでなく、フォーラムに真に求められているものは何なのか再考する必要がありそうだ。

●

10日・福岡国際会場、日本語セミナー。「10年後の日本ライオンズ」を語るパネリストの言葉に、ライオン西川大介（静岡県・富士宮中央ライオンズクラブ／43歳）は身を乗り出すようにして聞き入っていた。

今フォーラムでは「リーダーシップ」のテーマの下、セミナーの充実に力が注がれた。フォーラムでは毎回、言語ごとにセミナーが開かれるが、特に日本語セミナーは参加者が少なく閑散としていることが多い。今回は大多数を占める日本の会員向けに、日本語セミナーと三つのミニ・フォーラムが企画され、各会場で熱のこもったディスカッションが行われた。また、パネル・ディスカッションや着物ショーなど多彩な催しを組んだレディース・プログラムも大盛況で、一時は入場を制限するほどだった。

「今日はリーダーシップのミニ・フォーラムから参加しました。みんながライオンズについてこれだけ真剣に考えていることに、正直驚きました。これまで地区や複合地区大会に出席したことはありますが、この感覚はここに来ないと味わえないものですね。他地区の話を聞いたり交流することで、非常に勉強になりました」（ライオン西川）

参加者に明日のライオンズ活動の糧を持ち帰ってもらうというセミナーの目的は十分に果たされたようだ。今後のフォーラムの在り方を考える上で、この成功は大きなヒントになるに違いない。

●

最終日11日・ホテルオークラ博多、閉会式。このフォーラムでOSEAL地域の推薦が決議された2013

8日夜のコーカスでは、OSEAL地域から5人目の国際会長就任を目指す山田實紘国際第2副会長候補に対して、OSEAL地域の元国際会長2人、現職国際理事5人、各国代表が次々に支持を表明。最後にタム前国際会長から「山田候補者を支持しますか」の問いに、満場の「イエス」の声が上がった（❶）。翌9日のジャパン・レセプションでは、山田候補と清水英徳2013～15年国際理事候補に対し、マデン国際会長やタムLCIF理事長らから期待と激励の言葉が贈られた（❷）

2013～15年国際理事候補のライオンビョンギ・キム（韓国／355複合地区：写真右）、ライオンテレサ・マン（香港／303地区：中央）、ライオン清水英徳（日本／333複合地区：左）

不老安正組織委員会委員長から、次回シンガポール・フォーラムのリムホン・チー組織委員会委員長へ福岡フォーラム旗が手渡された

山田實紘国際第2副会長候補

年国際第2副会長候補のライオン山田實紘と、ライオン清水英徳（群馬県・高崎ライオンズクラブ）ら2013～15年国際理事候補3人がスピーチをし、山田候補は「推薦を受けて厳粛かつ幸せな気持ちです。国際協会100周年に向けて手を取り合って前進すべく、私の持てる力を全て発揮したい」と抱負を述べた。

福岡は2016年の国際大会開催地に決定しており、山田候補が当選を果たせば、国際会長として福岡国際大会を主宰する運びとなる。

全日程を終えて、担当理事の高田順一国際理事は福岡フォーラムを振り返り、次のように話す。

「不老安正組織委員会委員長始め地元337複合地区の皆様の長年にわたる熱い思いが込められたフォーラムが、成功裏に終了しました。各セミナー会場は熱心な参加者でいっぱいでした。フォーラムは友好親善だけでなく有意義な研修の場へと変化しつつあります。フォーラムの成功を見届けたマデン国際会長夫妻は韓国・釜山に向け旅立たれ、自宅に戻られるのは12月末になるとのことです。このような激務に山田實紘元国際理事が挑戦されます。ハンブルク国際大会に参加し日本の支援、心意気を大いに示しましょう」

日本語セミナー「明日のライオンズを考える〜未来への提言〜」

あなたはライオンズの未来を信じるか？

福岡フォーラム3日目となる11月10日、「明日のライオンズを考える〜未来への提言〜」と題して日本語セミナーが開催された。国際理事を始め7人のリーダーをパネリストに、10年後のライオンズを見据えてのパネル・ディスカッションが行われ、日本ライオンズの明るい未来像を具体的に描き出した。

この日、10時から2時までは「リーダーシップ」「アラート」「ライオンズクエスト」と三つのミニ・フォーラムが開催された。終了後、2時半からスタートした「日本語セミナー」はその総括という位置付けだ。朝から通しで参加しているメンバーも少なくなく、かなりの長丁場となったが、会場の参加者は疲労よりも期待を色濃く発していた。

パネリストは、秦従道、武久一郎両国際理事、不老安正フォーラム組織委員会委員長、後藤隆一、山田實紘両元国際理事、団英男元335・A地区ガバナー、川手寅平330・B地区第1副地区ガバナーの7人。モデレーターを大野元裕元330・C地区ガバナーが務めた。

日本語セミナーのテーマは「明日のライオンズを考える」。が、未来を語るにはまず現在を見据える必要があるということで、パネリストがそれぞれ各自の考える日本ライオンズの課題を挙げた。

●役職者選出におけるローテーションによる弊害の打破
●アイデアを実現する実行力
●地域社会での奉仕のリーダーシップの発揮
●ライオンズとしての誇りを持つ
●先人からのライオンズの遺産の相続・継承

これらを踏まえ、パネリストたちは、より良い未来を実現するには、大きな変化が必要だと語った。日本語セミナーに先立って開催されたミニ・フォーラムでは、ライオンズが直面する三つの重要なテーマが話し合われたが、ここでは求められる変化の例が示されたのではないか。そこでその情報を共有するために各ミニ・フォーラムから報告を受けた。

「アラート」では、災害発生直後の35地区のガバナーによるリーダーシップが必要だとされた。そのためには平時からガバナー同士のネットワークを構築し、マニュアルを整えておくべきだ。更に、災害発生後速やかに地域社会で役割を担うために、

災害対策における協定を地域の行政と提携すること、また訓練も必要である。

「リーダーシップ」についてはさまざまな状況及び手法があるとした上で、リーダーにはビジョンが必要、リーダーシップは周囲のフォローアップと融合して大きな力となる、リーダーの誕生には本人は育とうとし、周囲は育てようとする強い意志が必要、クラブや地区など、どのレベルで誰をどう育てるかを具体的な考えを持つことなどが挙がった。

「ライオンズクエスト」は大変有効なプログラムであり、近年急激な広がりを見せてはいるが、それでもまだ一部にすぎない。地区ガバナーのリーダーシップの下、プログラムへの理解を深め、各地域で広めていくことが望まれる。

日本語フォーラムのまとめとしてL大野がパネリストに、「これまでの内容を踏まえ、10年後のライオンズへの提言として、こんなライオンズにしたい、していくんだというご意見を」と求めた。

10年後のライオンズを担う若いメンバーに向けては、このようなエールが送られた。

団「若い力を持ってソーシャルメディアなども駆使し、クラブからの情報発信力を高めていってほしい」

川手「青年メンバーよ、蛮勇を奮え。失敗を恐れず冒険する、そういう若さの特権を発揮して望めば未来のライオンズは必ず発展する」

後藤「たくさんの仲間とライオンズ・ライフを楽しんでほしい。そして国内だけでなく世界に目を向け人々の助けとなってほしい」

運営面についてのコメントもあった。

武久「会員増強だけにとらわれてはいけない。会員の質の向上が重要だ。ライオンズに誇りを持つ会員を増やしていこう」

秦「組織はより効率よく奉仕するための手段である。地区ガバナー立候補者は就任前にマニフェストを発表し、方針に合った委員会を組織し、一方で不要な委員会は整理することも必要だ」

そしてライオンズの認知について。

山田「地域の中で行政と結びついてリーダーシップを発揮し市民権を得ることがライオンズの認知度を高める。2007年にイギリスの経済紙フィナンシャル・タイムズが行った世界中の名だたるNGO34組織を対象とした評価では、ライオンズクラブは第1位を獲得した。それなのに認知度は低い。日本ライオンズから『我らライオンズここにあり』と外へ向けて示していってほしい。私はこの度、国際第2副会長に立候補し支援を求めて世界を回ったが、各地で『山田がんばれ』という声を聞いた。これはそのまま『日本がんばれ』という意味なのだと実感している。世界中が日本ライオンズに期待しているのだ」

全ての発表を終えて、最後にL大野が会場の参加者に向かって「ライオンズの未来を信じますか」と問い掛けた。「未来を信じるか」とはつまり、より良い未来へつなぐため行動する気概があるか、ということだろう。心ある者よ、共に進もうと。果たして、会場は一つとなり、大きな拍手に包まれた。

ライオンズクエスト ミニフォーラム

前半のグループ・ディスカッションは篠田康人認定講師により、3テーブル15人の会員を生徒に見立てた模範模擬授業を実施。フロアでも約100人の会員が9テーブルに分かれ、三つの状況設定でグループ・ディスカッションを行ったが、篠田講師によるエネジャイザーの効果もあり活発な討議となった。後半のパネル・ディスカッションは各地区でプログラム推進に取り組んでいる会員や導入校の教諭がパネリストとなり、プログラムの普及活動の現状及び今後の見通しなどについて報告。その後、約100人の参加者との間で質疑応答が行われ、ライオンズクエストに関する情報を共有した。

リーダーシップ ミニフォーラム

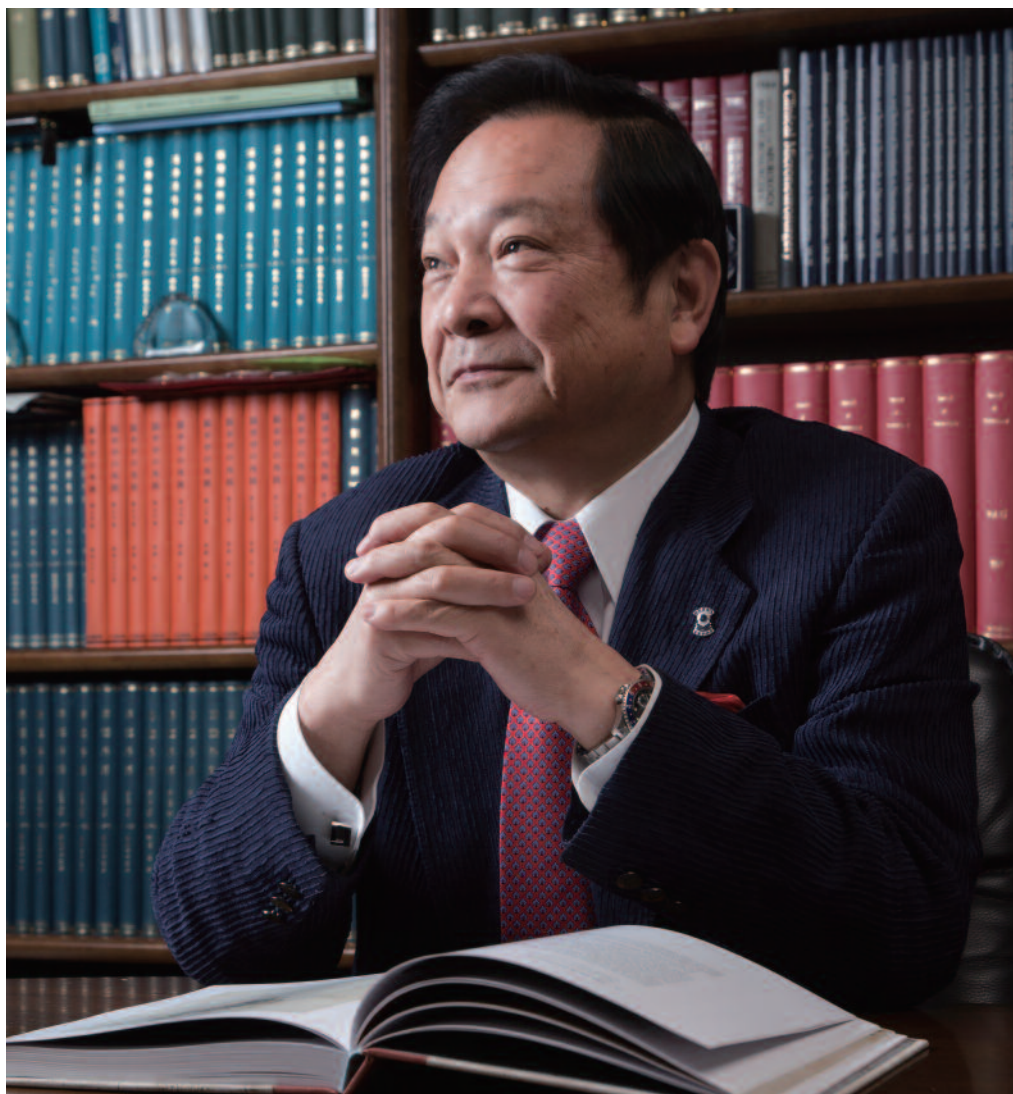
200人を超える参加者のほぼ全員が自ら望んで参加していた。前半のパネル・ディスカッションでは八つの地区（330-A、330-B、330-C、331-C、333-C、335-A、337-A、337-E）の青年アカデミー委員会委員長らがパネリストを務め、各地区での同委員会設置の目的や成果などが語られた。後半のグループ・ディスカッションは5～8人程度のグループに分かれてのディスカッション。最後の発表では、リーダーシップとはビジョンとミッションそしてパッションを持ち具体的な指示を示して組織を指導する力。人の意見にも耳を傾け、人を生かし高めることが統率力につながるなどの意見が出た。

アラート ミニフォーラム

午前に行われた発表では東日本大震災の被災クラブと支援クラブの事例が３例ずつ報告された。スクリーンに映写された被災地の写真に参加者の目は釘付け。真剣な表情で話に聞き入っていた。午後のグループ・ディスカッションでは、12グループそれぞれに担当者が付き、自己紹介から話し合いまでの流れを手助けした。各グループには「被災地のガバナー」や「遠方のクラブ会長」などの立場が設定され、その立場での災害時の対応について話し合われた。重要視されたのは被災地近隣のクラブの動き。身動きの取れない被災クラブに代わって全国に情報発信すべきという意見が目立った。

D

山田實紘2013-14年度国際第2副会長候補インタビュー

ライオンとしての誇りを胸に日本のため世界のため、今立ち上がる

60年を超える日本ライオンズの歴史の中で2人目となる国際会長就任を目指し、山田實紘元国際理事が2013-14年度国際第2副会長に立候補された。ライオン誌日本語版委員会は誌面を通じて全国の会員の皆さんに候補者を紹介するためインタビューを企画。福岡フォーラムでOSEAL地域の推薦を受けた山田候補にお話を伺った。

（聞き手・ライオン誌日本語版委員会委員長 矢口武克）

内気だった少年が医師に、そして国際人に

矢口 まずはライオンズクラブに入会される前のお話を聞かせてください。岐阜県美濃加茂市のお生まれということですが、山田少年はどのような少年だったのでしょうか。

山田 非常に内気だったですね。今もそうですが（笑）、とにかくおとなしい子どもでした。

矢口 そのおとなしい少年が医学の道に進まれたのには、何かきっかけがあったのですか。

山田 父も祖父も医者でしたから、

生まれた時から医者になると決まっていたようなものでした。今70歳以上の方はご存じだと思いますが、アメリカのテレビ・ドラマ「ベン・ケーシー」を見て、あの丈の短い白衣に憧れましてね。高校生の時から将来は脳外科医になろうと決めていました。

矢口　若き日に思い描かれた通り脳神経外科医として活躍され、更に国内有数の最先端の病院運営に力を注いでこられたわけですね。現在はハンガリー友好協会の会長も務めていらっしゃいますが、これも病院と何か関係があるのですか。

山田　病院とは全く関係ないのです。私の趣味とでも言いますか、国際交流にとても関心があります。ベルリンの壁崩壊の引き金となった事件で、汎ヨーロッパ・ピクニック計画というのがあります。民主化運動が活発になっていたハンガリーが、オーストリアとの国境ゲートを開放して暗黙のうちに東ドイツ市民を越境させた事件です。私はハンガリーというのは何とすばらしい国だと思って、現場を訪ねたのですが、モニュメントも何もなくて、ただ鉄条網の跡が残っているだけでした。その時は地区ガバナーを終えたところで、次のガバナーに協力をお願いして寄付金を募り、その資金で桜を植樹して立派な公園が出来ました。日本では全く知られていませんが、このニュースは全ヨーロッパに流されました。以来ハンガリーとの交流が続いています。首都ブダペストにあるペストブダ ライオンズクラブと私の所属する美濃加茂ライオンズクラブは姉妹提携を結んでいますよ。

■**山田實紘**（やまだ　じつひろ）

1943年12月生まれ。社会医療法人厚生会・木沢記念病院理事長。日本病院会常任理事。

1985年に岐阜県・美濃加茂ライオンズクラブ入会、94-95年度クラブ会長、95-96年度ゾーン・チェアパーソン、96-97年度334-B地区ガバナー、2005～07年国際理事を務めた後、08年、11年地区ガバナー・エレクト・セミナー・グループリーダー、10年7月～12年6月GLT会則地域副リーダー（日本担当）、2011-12年度国際理事会アポインティーを歴任

国際協会の中枢で積んだ経験

矢口　国際理事としての2年間は、国際大会委員会と長期計画委員会、更に執行委員会で活躍されました。日本の国際理事で、ここまで協会の中枢に入られた方を私は他に知りません。委員会ではどういったお仕事をなさったのですか。

山田　長期計画委員会でまず驚いたのは、当時2005年の時点で、このままではライオンズは無くなってしまうという強い危機感を持ってディスカッションを繰り返していたことです。非常に刺激的でしたね。

矢口　2年目に入られた執行委員会は国際会長と前会長、副会長2人に、理事の中から1人が加わるという構成ですから、これは大抜擢です。国際理事会の開催は年4回だけですから、平生、国際協会のかじ取りを担っているのはこの執行委員会だと言えますね。

山田　執行委員会には国家間の争いや、国内のもめ事なども上がってきて、それを法律的にどう采配するか決断を下すのも仕事です。中には戦争をしている国同士もありますからね。そういう意味でライオンズクラブの大きさを実感したし、この委員会の大変さが身に染みてよく分かりました。

矢口　そうした協会の心臓部におられて、ライオンズクラブの良い面と同時に改革しなければならない面もつぶさにご覧になったことでしょう。また日本のライオンズと海外のライオンズとの間には相違点があると思うのですが、その点はどのように感

福岡フォーラムのジャパン・レセプションでは、ウェイン・マデン国際会長とウィンクン・タムLCIF理事長に、日本からの国際会長誕生に向けた期待と激励の言葉を贈られた

じておられますか。

山田　アメリカと比較するとかなり違うと思います。もともとメルビン・ジョーンズの時代から、金銭的に余裕のある人たちが集まって地域の役に立とうという会でしたが、アメリカでは20世紀後半から、お金よりも汗を出そうということで、若い人でも女性でも奉仕の志を持った幅広い人たちが集まっている。日本の場合はまだ地域の名士の集まりという意識が強い。これから日本がどちらの方向に進むのかが問題だと思います。名士の集まりのままで進むというのも一つの方法ですが、それでは若い人たちに入ってもらうのは難しい。そうではなくて、2本立てで両立させていくのか、両方をミックスして一つにまとめていくのか、その辺りを考えていかなければならないと思います。

ライオンズの活動が多くの命を救う

矢口　国際協会中枢でのご活躍を経て、満を持して国際第2副会長へ立候補されたのは、どんな志を抱かれてのことでしょう。

山田　日本の現状を考えると、どうしてもやらざるを得ない、というのが本音です。もしこのまま会員の減少が続いて10万人を切れば、かつて世界第2位の会員数を誇った日本が、いずれお隣の韓国を下回ることになりかねない。人口がはるかに多いインドに抜かれたのはともかく、同じＯＳＥＡＬの韓国に追い抜かれるような事態は、私には受け入れ難いものです。また、日本が落ち込んでしまうことは、国際協会にとっても深刻な問題です。一時期ほどではないにしても、日本のＬＣＩＦ献金額は全体の20％を占めています。日本の貢献が後退してしまってはＬＣＩＦは成り立たないし、ひいては国際協会そのものの存続さえ危ぶまれます。日本全体の士気を高めるために必要なことは、国際会長を出すことでは

ないか。ならば今、誰かが立ち上がらなければいけないと考えました。

矢口　6月の釜山国際大会後に執行役員と国際理事による推薦がなされ、その後、大洋州及びその周辺、ヨーロッパ、アメリカ・カナダ、そしてOSEALと、各地域のフォーラムで山田候補の推薦が表明されています。今後はどのような展開になりますか。

山田　12月にはインドでインド・南アジア・アフリカ・中東、年明け1月にはチリでメキシコ・中南米・カリブ海諸島のフォーラムがあり、それぞれ推薦を頂けると思います。世界中の複合地区からも、推薦を承認したという手紙が毎日のように届いています。ただ、やはり国際大会の選挙で票が取れるかどうかが重要で、日本からどれだけ票が入るか、日本がどれだけ支援しているか、ということが注目されています。

矢口　国の力というのは代議員投票の数によって評価されると言われます。今こそ日本の力が問われていると、肝に銘じなければなりませんね。

山田　よく皆さんにお話しするのですが、私一人が国際会長になるのではない、10万人の日本ライオンズみんなが国際会長になるんだと、そういう気持ちでバックアップをお願いしたいです。

→現在も週に1日、脳神経外科の外来診療を担当
←「いつでも、誰でも、最良の医療が受けられるように」との理念の下、木沢記念病院は最先端の医療設備を導入し質の高い地域医療サービスを提供している

矢口　国際第2副会長に当選されたら、どのようなテーマを掲げて活動していかれますか。

山田　100周年を迎えようとしているライオンズクラブに求められる、L・I・O・N・Sの五つのキーワードを掲げました。Lは忠誠心(Loyalty)、Iが変革(Innovation)、Oが組織(Organization)、Nがノーベル平和賞(Novel Peace Prize)、Sは奉仕(Service)です。

矢口　ノーベル賞をライオンズにという主張は、国際理事の頃から掲げておられましたね。

山田　実は15年前のガバナーの時から打ち出していたんです。奉仕の仲間を増やしていくには、入りたいと思われるクラブ、誰もが憧れるようなクラブにしなければならない。ノーベル平和賞を受賞すれば、ライオンズの活動がおのずと市民に知られることになります。夢のような話と思われるかもしれませんが、視力ファーストを始めとするライオンズの活動によって視力を取り戻した人や失明を免れた人は数億人に上りますから、これは十分にノーベル平和賞に値する功績です。受賞は個人がするものと思われがちですが、これまでに国境なき医師団や、地雷禁止国際キャンペーン、核戦争防止国際医師会議などの団体が受賞しています。私は核戦争防止国際医師会議の会員になっていますから、ノーベル平和賞を取った一員です。ライオンズクラブが受賞すれば、会員みんなが受賞者ということになる。これを実現させたいというのが私の念願です。

矢口　それはぜひ受賞したいですね。最後にお伺いしますが、山田候補にとって、ライオンズクラブの最大の魅力とは何でしょうか。

山田　医者として一人前になってから70歳まで務められたとして、その間に救える命はどれだけがんばっても5千人に満たないでしょう。ライオンズであれば、現在LCIFが取り組んでいるはしかイニシアチブだけでも、何十万、何百万という人を助けることが出来ます。医者は人を助けるためにいますが、一人で出来ることには限界がある。組織の力で多くの命を救うことも一つの道であろうと、私は今、情熱を燃やしています。メンバー一人ひとりがそのように考えてくれれば、ライオンであることに誇りが抱けるはずです。

矢口　日本の悲願である国際会長の誕生に向けて、これからまだ長い道のりですが、どうぞ健康に留意されがんばってください。

被災地のライオンズは今

福島シニア ライオンズクラブ

福島県地域づくり総合支援事業として浪江町の原発事故避難者を支援する

　福島シニアライオンズクラブ（高橋信太郎会長／16人）は２０１２年４月から、福島県地域づくり総合支援事業（地域協働モデル支援事業）の補助金を受け、福島市笹谷にある浪江町サポートセンターを拠点に、原発事故避難者の自立支援活動を行っている。

　福島県では、内閣府の「新しい公共支援事業」交付金を基に「福島県県民活動支援基金」を設置。平成24年度は、東日本大震災に起因する福島県の諸課題の解決に向けた先進的な取り組み（民間団体が行う新規事業）で、他の地域のモデルとなる事業に対して補助金を出している。第１次募集には福島県内外から約１５０件の申請があり、その中から福島シニアライオンズクラブを含む48件が選定された。

　福島シニアライオンズクラブの事業は、福島市内の仮設住宅や借り上げ住宅に住む、浪江町からの避難者の生活再建支援を目的とし、浪江町の推薦を得て申し込んだ。対象世帯は約２５０世帯。65歳以上の高齢者が中心だ。期間は平成24年４月１日から平成25年３月30日の１年間で、２８３万９千円の補助金を受けた。

　浪江町ではもともと高血圧症や糖尿病を抱える高齢者の割合が、県平均を上回っていた。それが原発事故による避難生活の影響で更に悪化。要介護認定者は震災前の10倍に膨らんでいる。が、新規で介護認定を受けた人の多くは要支援と要介護１という軽度の要介護者であることから、早めに対応することで改善が図れる可能性がある。

　福島シニアライオンズクラブではそこに着目し、機能回復訓練や栄養指導などを計画。現在、月平均３回の活動を実施しており、理学療法士による体操や、ヨーガ療法士による機能訓練などのプログラムが組まれている。また、長引く避難生活の中で、さまざまな不安を抱えるお年寄りから、それぞれの悩みなどを聞く傾聴ボランティアも併せて行っている。

　福島シニアライオンズクラブは２０１０年４月に結成され、翌11年３月11日、東日本大震災が発生すると、332‐D地区（福島県）の支援物資集積所となっていた猪苗代町から、各避難所への配送に参加。支援物資の配布をしながら、避難所で実態調査を行い、自分たちに何が出来るか模索していた。そして９月、福島県飯舘村の菅野典雄村長と新潟県長岡市の高齢者総合ケアセンターこぶし園総合施設長を務める小山剛氏を招き「安心・安全な街づくり」をテーマに講演会を開催した。

　その後、避難所が解消され、被災した人たちが仮設住宅や借り上げ住宅に移る中で、いろいろな課題が浮かび上がってきた。特に高齢者の場合、避難生活の長期化に伴い、心と体の機能が低下する「生活不活発病（廃用症候群）」の発症が目立つようになっていた。また、阪神・

淡路大震災では、仮設住宅において高齢者の「孤独死」が発生したが、東日本大震災でも同様の事態が懸念されていた。

そこで福島シニアライオンズクラブは、介護予防や日常的な見守り、交流の場の提供など、継続的なサポート態勢の確立が必要だと結論付けた。が、クラブ結成からまだ1年、資金的な裏付けが乏しく、実際にどのように取り組むか考えがまとまらずにいた。

そんな折、濱田千恵子事業委員長が、県庁OBのノウハウを生かして、福島県地域づくり総合支援事業の補助金を活用することを提案。前年9月に実施した「安心・安全な街づくり」講演会で聞いた、高齢者のケアに関する項目を思い出し、事業計画を策定していった。

更に専門家や学識経験者を含む多種多様な組織や個人が対等な立場で参加し、協働して課題解決に当たる「マルチステークホルダー・プロセス」の会議体を構成。今野順夫福島大学名誉教授（元学長）を実行委員長に、福島シニアライオンズクラブ、医療法人生愛会、NPO法人福島県シルバーサービス振興会、社会福祉法人福島いのちの電話、浪江町健康保険課による実行委員会を組織した。

更に事業を開始するに当たって、生活相談に乗ったり、悩みや不安を聞く傾聴ボランティア育成のための研修を実施。福島シニアライオンズクラブを含む約50人が受講し、現在は浪江町サポートセンターでの活動の際に傾聴の時間を設けている。参加者からは、この時間が非常に好評なようで、高橋会長は、

「これによって一定の信頼関係が築けています。現在、サポートセンターでの活動には40人強が登録され、各回の参加者は20人程度ですが、センターの活動に参加していない方の声も聞いてあげたいですね」

と話し、孤独化しているお年寄りのことを気に掛けていた。今後、口コミなどで参加者の輪が広がっていくことが期待される。

（取材／鈴木秀晃）

国際理事だより

インディアナポリス国際理事会報告

■国際理事
武久一郎
（徳島城山）

２０１２年11月１日～５日、アメリカ・インディアナポリスにおいて国際理事会が開催されました。理事会開会の前日、10月31日にＬＣＩＦ執行委員会があり、経理状況の報告の後、総額４９０万ドルの支出が承認されました。時あたかもアメリカ東海岸をハリケーン・サンディが来襲、多大の被害をもたらしたことに対し、緊急に10万ドルの援助も決定しました。私にとっては初めてと言ってよい国際理事会は何もかもが新鮮で、興味深いものでした。

11月１日は五つの委員会別に会議が持たれ、私は所属する会則及び付則委員会に出席しました。その他の四つは、地区及びクラブ・サービス委員会、財務及び本部運営委員会、リーダーシップ委員会、会員増強委員会です。

会則及び付則委員会では、世界のライオンズ国及び地域に存在する多くの紛争、また訴訟事案が説明されました。法律用語が頻繁に出てくるため、同時通訳を担当してくださった国際本部職員の友子さんも苦労され、私も自分の意見を述べるに際して更に念押しをしなければならない場面もありました。

11月２日は朝９時から夕方５時まで八つの委員会別に会議が持たれました。３日もまた、朝８時から午後３時まで八つの委員会会議が持たれました。いずれの委員会でも多くの議題について真剣な討議が交わされました。一つひとつの議題に関して詳しい説明があり、委員全ての意見を聴取し、委員長が取りまとめ、それについての賛否を問うといった形で会議が進行しました。

３日夜には各委員会から出された報告書が英文で各自のｉＰａｄに送られ、それをよく読んでおくようにという指示が出されました。

４日の理事会審議会では各委員会からの報告がなされ、国際執行役員、国際理事、アポインティー出席の下に質疑応答が行われました。ここで十分な理解と同意があったことを前提として、翌日早朝に予定されていた理事会最終会議が審議会終了後に開かれました。最終会議では、各議題に対する動議が出されて賛否が問われて、全ての理事会日程が終了しました。

これら会議日程の間に、ほとんど毎日のように配偶者の参加する行事があり、親睦を深める機会が多く持たれました。会議の後は毎晩会場を変えながら家族レセプションが開かれ、約１時間半の間、アルコールやドリンクを手にいろいろな話をして親睦を深めます。その後ようやくディナーを頂き、１日の日程が終了するのが９時半から10時ということになります。アメリカや南米の理事を除き、私を含め東洋・東南アジアやヨーロッパの理事はいわゆる「ジェット・ラグ」で夜中に目覚め、夕方眠くなる悩みを大なり小なり抱えていましたが、国際協会の運営の一端、会議の進め方など、自分にとって多くの知見が得られ大変印象の深い経験でした。国際理事としてご推薦頂いた全ての方々に厚くお礼を申し上げます。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

東日本の複合地区合同 GLT 会議では、複合地区ごとに分かれてディスカッションが行われた

東西2カ所で複合地区合同の第1副地区ガバナー研修会とGLT会議

11月29日に兵庫県神戸市で西日本（334・335・336・337）の、30日に東京都中央区で東日本（330・331・332・333）の第1副地区ガバナー研修会及び複合地区合同GLT会議が開かれた。第1副地区ガバナーの事前研修は国際理事会の決定により今年度から変更が加えられ、複合地区研修会、オンライン事前課題学習、GLTエリア研修、地区ガバナー・エレクト・セミナーの4段階となり、国内研修はGLTが関与して行われることになった。そのため今回、不老安正（西日本）、杉本忠夫（東日本）両GLTエリア・リーダーの担当で、それぞれ4複合地区合同の研修会が開かれたもの。研修会では来年7月にハンブルクで開かれる地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダーを務める後藤隆一GLT会則地域副リーダーから、実務的な情報の説明と確認が行われた。

その後開かれた複合地区合同GLT会議には、第1副地区ガバナー、第2副地区ガバナー、複合地区GLTコーディネーター、地区GLTコーディネーターが出席。各複合地区、地区の活動状況について情報交換が行われた。後藤GLT会則地域副リーダーは「GLTの役割の第1番目にあるのが、新しい指導者を見いだし、育てること。クラブ、地区で新進気鋭のリーダーを生み出すために、各単一クラブから人材を発掘し育成する動きがなければ、GLTの効果は発揮されない」とし、クラブ・レベルまでGLTの活動を浸透させることが重要だと述べた。

福岡フォーラムの主な決議事項

11月8～11日まで福岡市で開催された第51回東洋・東南アジア・ライオンズ（ＯＳＥＡＬ）フォーラムで、２０１３・14年度国際第２副会長に、山田實紘元国際理事（334複合地区／岐阜県・美濃加茂ライオンズ（クラブ）／経歴は17（ページ）参照）の推薦を決議した。また、ＯＳＥＡＬ地域の２０１３～15年国際理事候補者（定数３人）の推薦が決議された。推薦を受けた候補者は、韓国のビョンギ・キム元地区ガバナー、香港のテレサ・マン元地区ガバナー、日本の清水英徳元地区ガバナー（333複合地区／群馬県・高崎ライオンズ（クラブ））。（ライオン）清水は67年高崎ライオンズ（クラブ）に入会、79年度クラブ会長、89年度ゾーン・チェアパーソン、94年度リジョン・チェアパーソン、97年度地区幹事、08年度地区ガバナーを務めた。

次回フォーラムは２０１３年11月7～10日、シンガポールで開催される。

ジャパン・レセプションで、ウィンクン・タムLCIF理事長の激励を受ける山田国際第２副会長候補（中央）と清水国際理事候補（右）

九州北部豪雨災害に対する全国からの支援

7月11日から14日にかけて九州北部の福岡、大分、熊本の3県で発生した集中豪雨は、死者・行方不明者33人、被害総額１８８３億円の大きな被害をもたらした。これに対しＬＣＩＦは緊急援助金17万（ドル）を交付し、各複合地区・地区を通じて寄せられた義援金と合わせ総額５８６８万１９９６円に上った。337複合地区の中間報告によれば、被害状況等に応じ337・Ａ地区（福岡）２２５８万３２７円、337・Ｂ地区（大分・宮崎）１３７９万９７５円、337・Ｅ地区（熊本）２２３１万６９４円と3地区に配分され、被災地域のクラブにより支援活動が進行している。Ａ地区では被災者へ米、弁当、飲料水、寝具、日用品、入浴券の配布や、保育園や高齢者施設、行政関係機関への物資支援と見舞金の贈呈、Ｂ地区では保育所、小中学校、公民館、医療センターへの飲食料品の支援の他、カーテン、椅子、机、スポーツ用具等の備品、人形劇舞台装置、グラウンド整備と見舞金の贈呈、Ｅ地区では生活用品や投光機、発電機の配布、被災世帯への見舞金、会員による排土作業や炊き出しの資材費に充てた他、今後は災害復旧支援車両1台を贈るなどの支援を予定している。

■九州北部豪雨への支援

LCIF	13,300,000
330	2,000,000
331	2,000,000
332	3,000,000
333	3,000,000
334	5,000,000
335	7,324,590
336	8,228,859
337	14,775,899
その他	52,648
合計	58,681,996

（単位／円）

337複合地区の澁田繁晴議長は全国からの支援に対し、次のように感謝の意を表している。

「災害発生直後に福岡県朝倉市へ、その後も福岡・熊本・大分の各県で寸断された道路の迂回を繰り返しながら、目を覆いたくなる惨状を視察しました。その状況をご報告し各複合地区議長へ支援を要請したところ、多額の義援金が寄せられました。中でも332複合地区並びに同複合地区内各準地区からは、東日本大震災の渦中にありながら多額のご支援を頂きました。全国の会員のご厚情に感謝申し上げます。ＬＣＩＦと支援してくださった皆様のお心に沿うべく、義援金は被災した準地区に配分し、真剣に支援活動に取り組んでおります。今後、被災地では道路等の産業基盤整備に2年、住宅再建の着手には更に1年程度が必要な状況です。時期を見て再度被災地を訪れ、復興の報告が出来ればと考えております」

熊本県阿蘇市一の宮町の被災現場。同市では土砂崩れにより３人が死亡した

インディアナポリス国際理事会で承認されたLCIF交付金

11月にアメリカ・インディアナ州インディアナポリスで開催された国際理事会で、一般援助交付金、国際援助交付金（IAG）及び四大交付金、合計80件、392万ドルが承認された。日本に交付されたのは9件30万2606ドル。申請地区と事業内容は以下の通り（IAGの表記があるもの以外は一般援助交付金）。

▼330・B地区＝身体障害者用車両の購入寄贈1万1025ドル▼334・A地区＝タイ東北部における小学校の建設3万2051ドル▼334・A地区＝カンボジアの学校にトイレの設置（IAG）2万9800ドル▼334・A地区＝知的障害者用トレーニング機器1万9230ドル▼334・A地区＝ガイド・ドッグ・ハウス5万ドル▼334・E地区＝ラオスにおける小学校の建設3万7500ドル▼334・E地区＝フィリピンにおける医療ミッション（IAG）3万ドル▼334・E地区＝フィリピンにおける歯科ミッション（IAG）3万ドル▼337・C地区＝眼科用医療機器の購入寄贈6万3千ドル

全交付金リストはLCIF公式ウェブサイト（www.lcif.org）に掲載されている。

会議録

■第1回複合地区会則委員長連絡会議（10月24日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：金子圭賢、古谷野環、高橋晴彦、立原祐司、土屋誠司、大石巖、光貞正明、千阪治夫各委員長、杉浦均議長）

①世話人、副世話人の互選②2012年会則・付則改正の確認③2012年釜山国際理事会決議事項の確認④ライオンズ必携、ライオンズクラブ役員必携の製作⑤その他

■第3回ライオン誌日本語版委員会（11月1日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：久津間康允、茂尾実、中居雅博、小西宗仁、矢口武克、団英男〈オンライン〉、組嶽晶一、田崎登保各委員、辰巳博昭〈オンライン〉、小柴登司〈オンライン〉両ITアドバイザー）

①ライオン誌日本語版事務所の運営②2012年11月号（10万700部発行）出来③12月号記事内容の確認④1月号以降台割（案）と主要記事予定⑤若手フォーラム⑥『ライオンズスピリット』新書判⑦その他

■第4回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（11月14日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：河合悦子、中嶋辛、田畑英伍、杉浦均、奥村啓二、寺越慎一、溢田繁晴各議長、秦従道、武久一郎両国際理事）

【第Ⅰ部：議長協議】①第96回ハンブルク国際大会（13年7月5日～9日）②LCIFハリケーン・サンディ義援金③財団設立の可能性（331複合地区）④2020東京オリンピック招致（330複合地区）⑤マデン国際会長の西日本公式訪問（9月21日）中止⑥委員会・会議報告⑦日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑧議長の職責【第Ⅱ部：国際役員との懇談】⑨秋季国際理事会報告⑩国際アワード（会長賞、リーダーシップ賞、感謝状）⑪上位ライオンズ・リーダーシップ研究会（13年1月11日～14日／タイ・バンコク）

新結成／解散クラブ

■新結成クラブ

福岡県・北九州第一（池田幹友会長）▼12月3日認証▼スポンサー／北九州紫水

■解散クラブ

11月＝福岡県・宗像／熊本県・益城

訃報

■元国際役員

ライオンケイ・K・フクシマ（元国際会長／アメリカ・カリフォルニア州サクラメント）

11月30日死去。1986～88年国際理事を務め、2002年に大阪で開かれた国際大会で国際会長に就任した。会員に贈られる最高の栄誉である国際親善大使賞を受賞している。日系3世のライオンフクシマは日本の会員に慕われ、つながりも深かった。最近では2012年4月の日本ライオンズ・メンバーシップ・セミナーの講師を務め、10月には大阪府・茨木ライオンズクラブ50周年式典出席のため来日し、335複合地区会員増強セミナーで講演したばかり。会員減少が続く日本ライオンズの現状を憂慮すると同時に、世界のリーダーとしての日本に大きな期待を寄せ、活性化に向けた変化の必要性を強く呼び掛けていた。

■献眼

10月＝ライオン室屋明（長崎県・佐世保東）

9. LCIF運営方針書を改定。これには、一般交付金交付基準及び規程を定める別紙の改正、表彰の形式を定める別紙の改正、及び銀行取引、投資、年次監査の変更点を反映したLCIF運営に関する章の改正が含まれる。
10. 理事会方針書第16章を改定。これには、委員会の項への監査委員会及びLCIF財務委員会の追加、人道的奉仕援助交付金支出に関する方針の更新、経費支払いに関する規程の更新、財団の銀行口座の署名者の更新、並びに投資と内部監査の項における重複部分の削除が含まれる。

リーダーシップ委員会
1. 2013年地区ガバナー・エレクト・セミナーのカリキュラム計画及び日程を承認。
2. 2013年地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダーとして、フィル・ネイサン元国際理事に代わりマーク・ミラー元協議会議長を承認。
3. カナダのトロントで行われる2014年地区ガバナー・エレクト・セミナーの研修実施期間を3日間と決定。

長期計画委員会
1. 2012-2013年度及び2013-2014年度の理事会代表に関する特別委員会の設立を承認。同委員会委員長及び最大7人までの委員の任命権をウェイン・マデン会長に与えることを決定。

会員増強委員会
1. 複合地区と地区は、家族及び女性シンポジウム補助金を2年に1度申請出来ることを決定。
2. 協会が引き続きライオンズに良いサービスを提供するため、2013-2014年度（2013年7月1日）から、新たに入会する家族会員は入会費とチャーター費を全額支払うものと決定。世帯主以外の有資格の家族会員は、引き続き国際会費半額免除の対象となる。
3. 新会員のスポンサーに関するあらゆる変更は入会日から90日以内に行わなければならないものと決定、即施行。
4. 創設者アワードを、会員委員長ではなく複合地区及び地区GMTコーディネーターを対象とするものに更新。地区GMTコーディネーターは地区で2％の増加を達成した際に受賞、複合地区GMTコーディネーターは1％の増加を達成した際に受賞するものとする。GMTコーディネーター職が3年任期であることから、本アワードは3年の累進アワードとして、純増達成実績に基づき年度ごとに授与される。
5. 新クラブ結成をたたえるエクステンション・アワードを改定。この変更で、本賞は新クラブの結成に携わったことを示す分かりやすいアワードとなる。この賞を遡及して受賞することは出来ない。改定されたアワード規程は2013年7月1日施行となる。
6. 書類提出先の正しい課名を反映すべく理事会方針書第18章中の課名を変更。
7. 過去数年の物価上昇に見合うよう、2005年以来見直されていない終身会員の一括納入金を650ドルに増額することを要請。

PR委員会
1. 理事会方針書第17章A項4.a.を改定し、条文の末尾に「国際会長以外による定期メッセージは掲載するべきでない」との一文を追加。

奉仕事業委員会
1. 世界各地のクラブからの大きな反響と、識字・教育に対するライオンズの献身をより強化する必要性に基づき、リーディング・アクション・プログラムを最低10年延長。
2. レオクラブ・プログラム諮問パネルで2012年11月～2014年10月の任期にパネリスト及び代理を務めるライオン及びレオを選定。
3. 現行のライオンズ眼鏡リサイクル・センター（LERC）理事会方針を再検討し、2013年4月の理事会会議にて奉仕事業委員会に方針修正の提案を報告する特別委員会の設立を承認。理事会方針に従い、同委員会メンバーは国際会長が選定する。同委員会のための経費（最低限のものとなることが見込まれる）は、奉仕事業部から出る。

※上記決議事項のいずれかに関する詳細は、国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）でご覧頂くか、国際本部の担当各部までEメールでお問い合わせください。

国際理事会決議事項要約

アメリカ・インディアナ州インディアナポリス
2012年11月1〜5日

監査委員会

1. 2012年6月30日付けのライオンズクラブ国際協会及びライオンズクラブ国際財団監査報告を検討し、承認。

会則及び付則委員会

1. 執行役員及び法律部長兼幹事との協議の上、301-A1地区（フィリピン）に関する事項を処理出来る権限を、会則及び付則委員会の委員長並びに地区及びクラブ・サービス委員会の委員長に対し付与。
2. 308-A1地区（シンガポール）シンガポール・シャングリラ ライオンズクラブにより提起された地区紛争申し立てについて調停者の過半数による決定を確定。308-A1地区大会開催中に決定されたライオントミー・チュー・タック・スンの国際理事推薦を一切無効とすることを宣言。308-A1地区シンガポール・チャッツワース ライオンズクラブによる会則関連抗議を議論の余地ありとして却下。
3. 323-J地区（インド）ジャムナガールシティ ライオンズクラブによる会則関連抗議を却下し、ライオンズクラブ国際協会によって以前認められた第1及び第2副地区ガバナーの任命を確定。
4. 理事会方針書第15章の契約に関する規定を、購買方針に言及するものに改正。
5. クラブ／地区の事業及びそのスポンサーによる商標の使用に関して、理事会方針書第15章を改定。また、協会が提供する会費外収入プログラムに関連する商標の方針を改定。
6. 終身会員の一括納入金を650ドルに増額するという国際付則第11条7項改正案を2013年国際大会に提出し、本改正案が可決されることを条件に、理事会方針書の該当箇所を改定することを承認。

大会委員会

1. ハンブルク大会に出席する、他の経費支払いを受けずに任命される資格証明委員会メンバー、地区ガバナー・エレクト、地区ガバナー・エレクト講師、及び本部職員の日割許容額を制定。
2. 理事会方針書を改定し、投票所付近で本部職員が選挙委員会を補助することを許可。
3. 理事会方針書を改定し、本委員会委員長の判断に基づき必要に応じて現地検分を実施することを許可。

地区及びクラブ·サービス委員会

1. 25複合地区（アメリカ）、111-NB地区（ドイツ）、317-E地区（インド）、322-C2地区（インド）の地区再編成案を承認。354複合地区から提出され　既に承認された地区再編成案を見送り。
2. コーディネーター・ライオン・プログラムを改定し、その支援対象を、継続的に地区ガバナーの空席が見られる地区の援助と、課題を抱える地区ガバナー・チームの指導にまで拡大。

財務及び本部運営委員会

1. 一般資金及び緊急積立資金の投資方針声明文で定義される運営役員に幹事を追加。
2. 黒字となる2012-2013年度収支予想を承認。
3. 一般資金投資より300万ドルの追加資金を運営に充てることを承認。
4. 理事会方針書第22章A項2.b.(2)を改定し、会員数4万人を超える複合地区について、地区内予算の受給対象となる元国際理事の数を5人に増加。
5. 理事会方針書第22章A項1.e.及びE項1.a.(2)を改定し、「現地の法令により別の規定が設けられている場合を除き」との文言を挿入。この変更はインドの役員にのみ有効なもので、現地の法令に従い全ての取引について領収書を要求するもの。
6. 理事会方針書第11章A項2の銀行関連業務の権限に関して変更。

LCIF

1. 「ライオンズ-スペシャルオリンピックス・オープニングアイズ」プログラムを延長するため、100万ドルの障害者援助四大交付金を承認。
2. 試験的衛生プロジェクトのために、15,260ドルの理事会指定四大交付金を承認。
3. 視力ファースト技術サービスに関する世界保健機関との契約を2,499,560ドルで4カ年更新。
4. 汎米眼科財団に対するLCIFの代表者を任命。
5. 総額3,921,404ドルとなる合計80件の一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金申請を承認。
6. 1件の交付金申請を保留。
7. 大型ハリケーン「サンディ」による被害を受けた地域に対し、10万ドルの大災害援助金を承認。
8. 慈善寄付年金の許可を申請するために必要となる法人文書を承認。

LCIF FILE

LCIF Development Update / Foundation Impact / SightFirst Update

LCIF Development Update

はしかイニシアチブの献金目標を達成

はしかイニシアチブ（MI）の献金が目標の1千万ドルに達しました。ご協力頂いた皆様に本誌上をお借りしてお礼申し上げます。キャンペーンを始めてちょうど10カ月で1千万ドルが集まったので、月平均100万ドルの献金があったことになります。

福岡のOSEALフォーラムの席で、国別のMI献金額が発表されました。驚いたのは日本の200万ドルに対して、台湾が300万ドルを集めたことです。LCIF献金となると日本が1番、アメリカが2番というのが定番なのですが、今回のMIでは台湾のメンバーの力の入れように脱帽です。そういえば釜山国際大会でも台湾のメンバーが多く表彰されていました。

昨年1月、本部から突然、途上国の「はしか撲滅」に取り組むので協力してほしいと要請がありました。通常、こうした事業への協力依頼は視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）の時のように、事前の準備段階から我々コーディネーターにも情報が流れてくるのですが、今回は急な話で驚きました。聞いてみると、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団との会議の席で、はしか予防接種のためゲイツ財団が500万ドル出すのでライオンズとして1千万ドル出せるかという提案があり、そこからスタートしたようです。

我々は日常、「はしか」という言葉を「そんなものは、はしかみたいなものだ」と、一過性で特に心配する必要はないというニュアンスで使っています。ところが、途上国では今でも、はしかで1日450人もの人が亡くなっているとのことで、改めてその怖さを認識しました。

はしかの予防接種はワクチンを使うためにクーリングシステムと呼ばれる冷却装置が必要となり、オンコセルカ症のように錠剤を飲むだけというわけにはいかないそうです。このためトータルコストが高くなるのですが、それでも1人当たり1ドルという経費で実施可能です。80円で人一人の命を助けることが出来ると考えれば安いものです。

国際本部のアフリカ担当職員が、はしかの予防接種の現場を訪れた際、炎天下で活動を手助けしている現地のライオンズ・メンバーに「この暑い中を大変ですね」と言ったところ「これでこの子たちの命が助かることを思えば少しも大変ではありません」と返事をされたという話を聞きました。

私も現地で実際の事業の手助けをして奉仕の喜びを味わってみたいと思うことがありますが、現地の言葉も出来ず迷惑になるだけ。その代わりに多くの方々に声を掛け、なるべく多くの献金を集めてお役に立てればと思います。私の地元東京では、東京ライオンズクラブが60周年を迎え、記念事業としてMIに会員1人千ドルの献金をして頂きました。

今回は特にはしか向けに新規の献金はお願いせず、通常のMJF献金をなさる方々に対して、はしか指定でとお願いしてきました。が、なにぶん本部からの依頼が突然で準備期間もなく、この事業の将来の展開を明確に示すことも出来ないなど、コーディネーターとしてもエンジン全開とはなりませんでした。

福岡フォーラムで、タムLCIF理事長が「20年後には、はしかの発生率がゼロになるように」という発言をされていたので、MIは継続していくと思います。しかし、この原稿を書いている段階では、長期的な方針は本部でもまだ決まっておらず、皆さんに十分な説明が出来ないのが心苦しい限りです。とはいえ、ライオンズとして月平均100万ドル、10カ月で1千万ドルを集められたということは、世界一の奉仕団体として誇りに思っていいのではないでしょうか。

（東日本担当LCIFエリア・コーディネーター／石井征二）

ライオン誌日本語版委員会主催

ライオンズ若手会員フォーラム 参加者募集

ライオン誌日本語版委員会は2013年5月号のTHEME企画として、若手会員を対象としたフォーラムを開催致します。ライオンズの明日を担う50歳未満の若い会員の皆さんに、「リーダーシップ」をテーマに大いに議論して頂きます。ライオンズの明日を語り、全国の同世代の仲間と交流の輪を広げるフォーラムにぜひご参加ください。

<募集要項>

日　　時：2013年3月9日（土）11:00〜17:00
グループ・ディスカッション

会　　場：日本印刷会館（東京都中央区新富1-16-8）

参 加 費：3,000円（昼食代・飲み物代・資料代）※その他交通費等は参加者自己負担

参加条件：1963（昭和38）年7月1日以降生まれのライオンズクラブ会員
（今年度末時点で50歳未満の会員）

応募方法：下記の内容をEメールで送信してください。
■氏名　■クラブ名　■生年月日　■入会年月
■住所　■電話番号
送信先：edit@thelion.jp

応募締切：2013年1月21日（月）＊参加者定員50人に達し次第、応募を締め切ります。

CLUB REPORT クラブ・リポート

333-D地区

群馬県・館林中央ライオンズクラブ

南三陸町の仮設住宅で館林うどんと歌の集い

11月4日、まだ暗いうちから館林中央ライオンズクラブ（浅沼光男会長／27人）のメンバーは南三陸町志津川中学校仮設住宅へ向けて車を走らせていた。東日本大震災の被災者激励訪問のためだ。この日は仮設住宅でアコーディオン奏者三好創さんによる歌の集いと天ぷらうどんの炊き出しを行う。その後、気仙沼のホテルで旅行例会をし、翌5日は気仙沼の仮設商店街で支援の買い物をする計画だ。アクティビティには群馬県から館林ライオンズクラブ、板倉ライオンズクラブの会員が同行、仮設住宅での受け入れには地元・南三陸志津川ライオンズクラブと、佐沼ライオンズクラブ、栗原若柳ライオンズクラブなどが協力した。

仮設住宅に到着すると早速準備に取りかかる。まずは歌の集いだ。仮設住宅の集会場に集まった皆が三好さんの奏でるメロディーに合わせて歌う。曲目は「北国の春」「三百六十五歩のマーチ」など懐かしの名曲たち。「とにかく大きな声で！　風邪引いてる方は人にうつして帰っちゃうんですよ」「こないだワン・ツー・パンツって歌った人がいたんですがね、間違ってもいいから声を出すのが大事なんです」といった三好さんの軽快な話しぶりに、最初は歌うことに抵抗があった人も徐々に口を開け、声を大きくしていく。子どもからお年寄りまで、皆が一体となった

当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。
●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に700字程度で。写真を添付。

時間だった。

　集会場がそんな盛り上がりを見せる最中、館林中央ライオンズクラブを始めとしたメンバーは昼食の準備を進めていた。この日は群馬3大うどんの一つと呼ばれる、有名な館林うどんを仮設住宅の方々に振る舞う。歌の集いが終わり、出て来る人たちに声を掛けてうどんを渡していく。おいしそうにうどんを口へ運ぶ姿を見て、メンバーも誇らしげだ。

　館林中央ライオンズクラブは3月にも歌の集いとうどんの炊き出しを行っている。今回、この支援を行うことを決めたのは浅沼会長の強い決意だった。「被災地支援はとにかく継続することが大事。派手な行事をするよりアクティビティにお金をかけたかった」と今回の実施を決めた。橋渡し役として打ち合わせを行い、この日も手伝いに駆け付けた栗原若柳ライオンズクラブのライオン森笠一幸は「この活動には、みんなの笑顔があるよね」と目を細めていた。館林中央ライオンズクラブでは今後も何らかの形で東北支援を続けていきたいと考えている。

（取材／井原一樹）

336-D地区

島根県・平田ライオンズクラブ

グラウンドゴルフで遊ぼう！

平田ライオンズクラブ（34人）は9月18日、青少年育成事業の一環として出雲市立東幼稚園の子どもたちとグラウンドゴルフで交流をした。グラウンドゴルフとはゴルフに似た子どもからお年寄りまで楽しめるスポーツだ。

この日、ほとんどの子どもが初体験だったが、当クラブ唯一の同好会であるグラウンドゴルフ同好会のメンバーらの指導を受けると「楽しい」とやる気満々でプレーしてくれた。その後、子どもたちから「鬼太郎音頭」を披露してもらい、手作りの記念メダルを頂いた。当クラブからは、スプリングボールを幼稚園に贈呈した。半日の交流だったが、年の差を超えて互いに親しみを感じられる良いひと時となった。

後日、子どもたちの希望でこの秋の運動会にグラウンドゴルフを取り入れた競技が考案されたと聞いた。子どもたちの心に我がクラブとの交流の時間が深く刻まれたのではないかと思い、うれしい限りだ。

当クラブは45周年記念事業で13の小学校にグラウンドゴルフの道具を寄贈した。各小学校ではクラブ活動等で活用して頂いている。年に1回開催する「小学生交流グラウンドゴルフ大会」では当クラブ同好会員が審判を務める。青少年育成事業の中でも中心の活動であり、本年度で5回目だ。

来年、出雲市立東幼稚園の子どもたちが低学年の部で参加し、再び会うことが出来たらと思っている。これからも子どもたちの成長の手助けが出来るよう、会員一同がんばっていきたい。

（会長／武部昭）

334-B地区

岐阜県・本巣ライオンズクラブ

メタボおじさんのお料理教室例会

本巣ライオンズクラブ（48人）は10月18日、「メタボおじさんのお料理教室例会」を開催した。奉仕を行うには自分自身が健康でなくてはならない。そのためにはどういう食事をしたらいいかを学ぶ会だ。初めての試みだったが、岐阜女子大学の学科長、水野教授が講師を引き受けてくださった。この「メタボおじさんのお料理教室例会」という名前も水野教授が考えてくれた。

普段は料理と無縁のメンバーたち。まずは、エプロンの付け方から苦戦を強いられる。何とか準備が整ったところで先生から講義があり、料理の手本を見せてもらった。その後、6グループに分かれ、いよいよ実践。当日は水野教授の他に講師の方2人、学生さん4人に各グループの助手としてお手伝い頂いた。

この日の献立は、サンマの梅蒲焼、滑らか茶碗蒸し、ホウレンソウのおひたし、厚揚げの生姜しょうゆかけ。葉酸とDHAをたっぷり摂取出来るメニューだった。調理を終えたテーブルでは早速試食。自分たちで苦労して作った料理に、あちこちから、おいしい！の声。料理を作る楽しさと大変さを両方学び、日頃作ってくれている家族に対し、感謝の念も忘れない。食べ終わった後は自主的に後片付けだ。料理を通して会員の団結が深まったような気がした。

今年度のスローガンは「絆を深め笑顔で奉仕」だ。普段はあまり縁のない料理に皆で取り組み、絆を深めることが出来たのではないだろうか。後は、健康を維持してこれからも笑顔で奉仕に取り組みたいと思う。

（会長／堀部好秀）

335-C地区

京都賀茂ライオンズクラブ

手話劇コンクールに向けて

京都賀茂ライオンズクラブ（野坂直人会長／43人）は2013年3月24日に第15回手話劇コンクール京都大会を開催する。例年、京都会館第2ホールで開催しているこのコンクール。しかし、今回は京都会館が改修工事で使用出来ないため、当クラブの例会場でもあるグランドプリンスホテル京都に会場を変更した。初めてのホテル開催ということもあり、手話劇部門、パフォーマンス部門の2部門で募集をした。今までとは違った舞台で行うことは新たなチャレンジになる。もちろん不安もあるが、今は新しい期待で胸がいっぱいだ。

当日は当クラブ・メンバー全員が舞台に上がり、手話を使ってライオンズクラブの歌を披露するため、今から練習を重ねている。9月第1例会を「手話講習例会」として、京都市聴覚障害者協会の戸田さん、京都市手話通訳問題研究会の高野さん、本岡さんから手話指導を受け、メンバー全員が熱心に手話歌に挑戦した。メンバーは他にも、資金調達として、パンフレットの広告募集、チャリティー・ゴルフの実施など積極的に動いている。また、手話劇に参加するメンバーもおり、クラブ一丸となってがんばっている。

毎年多くの時間と労力を費やして実施する手話劇コンクール。だが、聴覚障害者の方と健聴者の方との交流に役立ち、手話文化発展の力になれれば関係者の方々や当クラブ・メンバーの汗と涙も喜びとなる。手話劇、パフォーマンス、手話歌全てでお客さんに楽しんで頂けるよう努力を重ねていく。

（幹事／浦田正子）

333-C地区

千葉県・船橋ライオンズクラブ

次代へ継ぐ奉仕の実践

船橋ライオンズクラブ（高橋弘明会長／33人）は10月に通算1234回目の例会を迎えた。1961年9月27日、東京浅草ライオンズクラブのスポンサーで結成されて51年。地区ガバナー5人を輩出するなど活発に活動してきた。今や若いメンバーが中心となっているが、チャーター・メンバーライオン斎藤貞雄は90歳を超えて今なお壮健だ。例会では元気な姿でメンバースピーチを行うなど、私たち若いメンバーを督励されている。

クラブの奉仕活動は多岐にわたるが、例会の後に必ず行っているのが、中古眼鏡の整理、梱包だ。これにはメンバー全員が参加する。2007年から始めたこの奉仕活動で、中古眼鏡を延べ4万本以上オーストラリアのリサイクルセンターなどへ送った。

募金活動、清掃活動などは働き盛りのメンバーにとって、時間的制約から参加出来ないことが多い。このアクティビティは例会後に実施するため、そういったメンバーが参加出来る良い機会となっており、作業は和気あいあいとテンポ良く進む。

クラブのホームページを見た一般の方から中古眼鏡提供の申し入れもある。また、先日の例会では一般の方にも眼鏡の整理に協力して頂いた。

地道だがコツコツと歩み続けてきた我がクラブの先達の奉仕精神が今なお確実に生かされていることに、我々若いメンバーは誇りを持っている。この中古眼鏡を送るアクティビティは、また我々の次世代へ引き継ぐ全員奉仕の確かな歩みとして今後も継続していく。

（高松成一）

334-D地区

福井県・敦賀みなとライオンズクラブ

被災地を照らす「希望の灯り」

11月11日、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町で、犠牲者を追悼し、復興を祈願するモニュメント「希望の灯り」の点灯式が行われた。震災以来、大槌町を中心に被災地支援活動を続けてきた敦賀みなとライオンズクラブ（清水直喜会長／62人）が、大槌ライオンズクラブ（千葉繁会長／14人）との合同事業として実施した。

モニュメントは町の中心部や、「ひょっこりひょうたん島」のモデルとされる、蓬莱島を望む城山の高台に設置。震災から1年8カ月となったこの日、出席者全員で海に向かって黙祷を捧げた後、被災された町民や碇川豊大槌町長ら関係者が、震災発生の14時46分に合わせて、ガス灯に火をともした。

「希望の灯り」は阪神大震災から5年後の2000年、47都道府県から寄せられた種火を一つにして、神戸市に点灯された。この「灯り」が、11年12月10日に岩手県陸前高田市、12年3月10日に福島県南相馬市に分灯され、それを知った清水会長が、支援活動を通じて大きな絆が生まれた大槌町にも「希望の灯り」をともしたいと企画した。

敦賀みなとライオンズクラブでは物資支援の他、津波がさかのぼった小槌川の土手で草刈りに取り組むなど、大槌町での活動を継続的に行ってきた。そうした経緯から、クラブではこれを結成35周年記念事業に据え、「3・11大槌希望の灯り」として実施することを決定した。

計画を進める中で、地元の大槌ライオンズクラブも協力を申し出てくれ、碇川町長からも「町民の心の拠り所にしたい」と賛意を得た。その上で「阪神淡路大震災1・17希望の灯り」を管理するNPO法人（堀内正美代表）に依頼し、分灯が実現した。

点灯式の後、清水会長のケータイに、1年半にわたる一連の支援活動で親しくなった大槌町の方からメールが入った。

「大槌の町に灯が灯りました。行方不明の知り合いが灯を頼りに帰って来るような気がします」

「希望の灯り」は、震災で犠牲になった方たちと、町に残った方たちをつなぐ灯火でもある。

（取材／鈴木秀晃）

「希望の灯り」の維持管理のために作られた瓦せんべい。1箱につき、1日分のガス灯代に当たる200円が寄付される

335-B地区

大阪府・茨木ローズ ライオンズクラブ

東北支援チャリティーうどん

茨木ローズライオンズクラブ（36人）は、7月28日と29日、第40回茨木フェスティバルに東北支援チャリティーうどん屋を出店した。このアクティビティを行うきっかけは、ボランティア団体「がんばろう！ つばさネットワーク」が気仙沼の高校生たち50人を茨木に招待すると聞いたことである。この団体は大阪府立北摂つばさ高校の生徒、教員、PTAなどによって2011年に結成されたものだ。

8月の実施に向け、地元自治会がホスト家族として高校生を受け入れることを決め、つばさ高校の生徒たちも7月には茨木市駅前で4回の募金活動をするなど、受け入れに向けて皆が協力していた。このことを知り、当クラブも共に支援をしようと決めた。そして、支援金調達のため今回のアクティビティの実施となったのである。

この第40回茨木フェスティバルではうどん屋の他に、茨木オークライオンズクラブと共に「ビッグバンドJAZZフェスタin茨木」を開催した。ここにも震災義援金箱を設置し、2日間のうどん屋の売上金全額と合わせて34万円が集まった。この義援金は8月11日に「大阪と岩手・宮城県境地域の若者が復興に向けて考えるユースフォーラム」で気仙沼の高校生たちに贈った。

フォーラムでは気仙沼の高校生たちに「全世界のライオンズクラブは、みんな仲間である」と伝え、気仙沼へ帰って、もし気仙沼ライオンズクラブが献血奉仕活動をしているのを見かけたら、ぜひとも献血に協力して頂きたいとお願いした。

（会長／古川泰稔）

336-D地区

島根県・仁多ライオンズクラブ

島根リハビリテーション学院生徒との交流会

仁多ライオンズクラブ（糸原健二会長／44人）は10月3日、教育、社会福祉両委員会の企画で、4年制の専門学校である地元島根リハビリテーション学院生徒との交流会を実施した。

今回の交流会は献血への協力要請をすることと、同じ地域住民同士の連帯感を作り出すことが目的だった。事前に、学院、学生と内容、期日、場所等について、細かく打ち合わせを行っており、当日は「いのち・愛・家族」をテーマに、対面形式で意見交換をした。「介護、看護の知識・技術だけでなく、患者に寄り添った、人として頼られるような医療従事者になりたい」という意見が出るなど、ほとんど全ての院生から発言があった。それを受けて当クラブから、レディの皆さんも含めて、夢の実現に向けてがんばるよう、激励の声掛けをした。

交流会の後は場所を変え、懇親会も実施。その中で、学生自治会長から、地域行事、特にスポーツ大会等に参加をしたいので、実現出来るよう各地区自治会長会に提言頂きたいという意見も出た。

この交流会、懇親会を実施した結果、学生たちとの一体感が生まれ、献血要請も気持ち良く応じてくれる感触を得た。また、我々も学園祭などの行事に積極的に参加し、互いに対する理解をより深めていくべきだと思った。

今後、島根リハビリテーション学院と共同で行事を企画するなどすれば、地域の中で双方の存在が高まっていき、良い相互作用が生まれると思う。

（情報委員長／伊藤勝年）

334-B地区

岐阜あかつきライオンズクラブ

福岡フォーラムで東北復興支援屋台

11月9日、福岡フォーラム開会式会場前でフード・フェスティバルが開催された。70を超えるブースが設営され、食べ物や工芸品などが販売された。各地からクラブで出店するライオンズも多く、普段、資金獲得アクティビティなどで鍛えた腕を振るっていた。

そこで岐阜あかつきライオンズクラブ（山岸恒久会長／34人）は「東北復興支援屋台」と題したブースを出店した。販売するのは気仙沼ホルモンなど。収益は東日本大震災の被災地支援に充てる。また、「希望の灯り瓦せんべい」も販売された。気仙沼ホルモンとは、豚の生のモツを味噌ニンニクで味付けして焼いたもの。ピリ辛の味が、モツによく合う。また、ハツ、レバー、小腸などをミックスしているため、いろいろな食感が楽しめるのも特徴だ。元は精肉店のまかないが発祥であり、気仙沼の漁師たちに親しまれている味である。

東北復興支援屋台の気仙沼ホルモンは本場気仙沼の亀山精肉店から仕入れた。

既に味付けされた状態で袋詰めしたホルモンを鉄板に載せ、豪快に焼いていく。岐阜あかつきライオンズクラブのメンバーたちは通行人に声を掛けたり、付け合わせの千切りキャベツを容器に入れたりと大忙しだ。そのかいあって、多くの屋台が並ぶ中、東北復興支援屋台は大繁盛。多くの人がホルモンの匂いに足を止めていた。また、気仙沼横丁を運営する一般社団法人復興屋台村の代表理事で宮城県・富谷ライオンズクラブのメンバーでもあるライオン若生裕俊も応援に駆け付けた。更には、ウィンクン・タムLCIF理事長も忙しいスケジュールの合間を縫って訪れ、気仙沼ホルモンを注文。身を粉にして働くメンバーたちを激励し、「希望の灯り瓦せんべい」を3箱購入していった。

東北復興支援屋台では気仙沼ホルモン400食以上を売り、「希望の灯り瓦せんべい」も用意した200箱が完売。加えて260箱の予約を受けるなど大盛況だった。 （取材／井原一樹）

336-A地区

高知東ライオンズクラブ

陸前高田・大船渡の仮設住宅を訪ねて

２０１２年3月27日から29日にかけて、私は勤務先であるホテル日航高知旭ロイヤルの総支配人、料理長、サービススタッフなど10人で大船渡市と陸前高田市の仮設住宅に炊き出しに行った。

その様子を記録したＤＶＤを高知東ライオンズクラブ（山崎芳樹会長／42人）の例会で披露したところ、多くのメンバーからクラブでも現地を訪問しようという声が上がった。その後、準備を重ね、半年後であり、東日本大震災からちょうど1年半が経過した9月11日に当クラブで被災地を訪れた。

今回は会員16人が現地近くの一ノ関駅で6台のレンタカーに分乗し、9カ所の仮設住宅1100世帯と大船渡、陸前高田の両市役所、大船渡五葉ライオンズクラブを巡り、カツオのたたきとポン酢を配った。

仮設住宅は7戸の小さな集団から300世帯を超えるものまで、数多く点在しており、このエリアだけでも全てを回ることは難しい。仮設住宅にお住まいの皆さんが一番うれしいのは、見捨てられていないと感じた時だということ。今度来る時は、誰も立ち寄ってくれない仮設住宅へも寄ってやってくださいと言われた。

私たちが訪問した初日が、現地のガバナー公式訪問の日であったため、千葉龍二郎332-B地区ガバナーにもお会い出来、幸運だった。大船渡五葉ライオンズクラブの長谷川瑞彦会長には大変お世話になった。今後、被災地の方の気持ちを多くの方に伝え、心の絆を結び続けたいと思っている。（第1副会長／竹内豊）

337-E地区

熊本県・免田ライオンズクラブ

特別養護老人ホームパチンコ大会

免田ライオンズクラブ（松尾悌二会長／51人）と錦ライオンズクラブ（東浩一会長／22人）は以前から郡内の特別養護老人ホームのお年寄りを招待し、パチンコ大会を開催している。毎回、メンバーが経営するパチンコ店で行っており、9月12日で21回目を数えた。今回は合計9カ所の特別養護老人ホームから15人程度が参加した。

参加者には車椅子の方も多い。そのため、パチンコ店の椅子を外してもらうなど、従業員の方にも協力をしてもらっての開催だ。

最初に各参加者にパチンコ玉1千発ずつを手渡し、合図でスタート。1時間が過ぎた時点での残り玉の数を競うのが今大会のルールだ。

結果、10位までの人に衣類や日用品といった盛りだくさんの賞品が手渡された。また、最高齢の参加者であった103歳の男性には特別賞が贈られた。この方は車椅子ではあるものの、目も耳もしっかりとしている。

昨年出場した方の中にはメンバーの顔を覚えている方もおり「また来たバイ」と声を掛けられることも。「必勝」と書かれた白はちまきを巻いて登場した参加者もいて、驚かされた。

平日にもかかわらず、多くのメンバーが協力し、パチンコ玉を皿に載せたり、溜まった玉をケースに入れたりと大奮闘だった。

参加者の皆さんのうれしそうな顔とメンバーの奮闘ぶりを見ると、これぞライオンズの活動であり、やって良かったアクティビティだと実感した。

（情報ＰＲ委員長／桑原康隆）

334-A地区

愛知県・豊橋シニア ライオンズクラブ

「あいさつ運動」で広がる明るい笑顔

豊橋シニアライオンズクラブ（35人）は9月中の平日、豊橋駅前で毎朝「あいさつ運動」を実施した。この運動はクラブ結成時から春と秋に実施しており、今年で10年目を迎える。

当クラブは2003年6月に結成した。結成後、どうすれば地域に貢献出来るかを皆で考えた結果、豊橋を明るくし、人の心を元気に出来るとして始めたのがこのあいさつ運動だ。

朝の通勤、通学時間に40分間、通り過ぎる人に対して笑顔と共に「おはようございます」の一言を届ける。始めたばかりの頃は見知らぬ我々にあいさつをされ、けげんな顔をして通り過ぎる方も多かったが、継続するにつれ、新聞やテレビで見た、と笑顔を返してくれる方が増えていった。

3年目に入った2006年には、このあいさつ運動が三つの小学校へと広がった。豊橋駅前でのあいさつ運動を見た中学校の校長が、この中学校のグループ小学校3校に呼び掛けて実施することとなったのだ。先生やPTA、豊橋シニアライオンズクラブのメンバーが校門前に立ち、あいさつ運動を実施。児童のあいさつに元気をもらった。

また、5年目からは市内の三つの高校にも広がった。毎年4月には高校生が我々と一緒に元気良くあいさつをしてくれる。各校交代で行い、部活動ごとに参加してくれるため、毎朝違う高校の違う部活の生徒が駅前に立つ。部や学校によって違いがあるが、どの生徒たちも若い力であいさつをしてくれるため、毎朝、豊橋駅には活気があふれている。（会長／柴田博史）

335-A地区

兵庫県・尼崎ライオンズクラブ

気仙沼市へ目録を贈呈

尼崎ライオンズクラブ（川内隆会長／38人）は9月26日から27日にかけて宮城県気仙沼市を訪れた。到着した仙台空港では感じなかったが、気仙沼市の市街地では震災の被害を実感せざるをえなかった。

海岸から遠く離れた道路際に大きな漁船が鎮座し、付近には鉄筋コンクリートで出来た住居の土台のみがむなしく残っていた。咲き誇っているコスモスが悲しさを誘う。津波のすさまじさを想像させるに十分な光景だった。

27日には、購入することで支援となる「気仙沼なう」などの文字が入ったTシャツを着て、気仙沼市役所を訪問した。菅原茂市長にお会いし、尼崎ライオンズクラブ、尼崎レオクラブからの目録を贈呈する運びとなった。

贈呈会場の2階に向かう途中、ある標語が目に入った。「出来ませんとは言いません」これを見て感動した。市民にとってこれほど励まされる言葉はないだろう。市長と市役所の皆さんの意気込みを感じると共に、これが実践される限り、復興は早いと思った。

軽自動車2台、図書、子ども用の遊具など総額500万円を超える目録の贈呈式には気仙沼ライオンズクラブの菊地信雄会長、牧野正久幹事も臨席頂き、華やかなものとなった。また、ライオン長手佳世の代読により、尼崎の稲村市長から気仙沼の菅原市長へのメッセージも伝えられた。

こうして気仙沼の皆様と時間を共有出来たことをうれしく思うと共に被災地の一刻も早い復興を願っている。（PR・会報・IT委員長／安田穣）

331-B地区

北海道・遠軽ライオンズクラブ

中学2年生に古事記の魅力を

遠軽ライオンズクラブ（佐野和志会長／34人）は9月3日、青少年育成事業の一環として、遠軽町立遠軽中学校の2年生を対象として古事記にまつわる講義を開いた。

講師は当クラブ会員である循環器科医師ライオン木島基。歴史能力検定世界史1級を5回以上合格した人にだけ与えられる「世界史博士」号や日本史1級を3回以上合格した証である「日本修士」号を持っている。このように歴史に精通した彼が生徒らに古事記を通じて歴史や古代史の持つ魅力を伝えた。

古事記は太安万呂が712年に編纂し、献上した日本古来の歴史書で、上中下巻によって構成されている。ライオン木島は上巻の伊邪那岐命と伊邪那美命が互いに声を掛け合って大八島国（日本）を誕生させたとされる「国産み」の話から、伊邪那岐命が左目を洗うと天照大御神が生まれ、右目を洗うと月読命が生まれたという「神産み」の話、物語として一般的にも有名な稲羽の白兎や八岐大蛇の話などを解説した。

また、こうした古事記に出てくる物語に、ギリシャ神話や聖書など、他の国に伝わっている物語や伝説、神話と共通項があることを説明し、「歴史や神話は面白いので興味を持ってほしい」と生徒たちに伝えた。生徒は講義の間、メモを取るなどして熱心に聞き入っていた。最後には生徒からの質問にライオン木島が答え、講義は終了した。

今後も、このような事業を更に継続し、取り組んでいきたいと考えている。

（青少年育成委員長／溝口政行）

337-B地区

大分南ライオンズクラブ

AMラジオキット製作教室

大分南ライオンズクラブ（21人）は9月19日、大分市立南大分小学校の科学クラブの生徒31人を対象にAMラジオキットの製作教室を開いた。

ラジオを聞かなくなっている子どもたちにラジオの楽しさを知ってもらうと共に物作りの面白さと、完成時の感動を体験してもらいたいと思い、開催した。これは長年、アマチュア無線を趣味にしている私が校長の秋山富子先生に提案したのがきっかけだ。秋山先生が大変乗り気になり、科学クラブの授業時間に取り入れて頂いた。秋山先生によると、小学校の場合、担任の先生以外の人による授業はほとんどないため、外部の人による授業は子どもたちも非常に喜ぶとのことだった。

当日は当クラブから6人の会員が駆け付け、子どもたちの補助に就いた。慣れない細かな作業ということもあり、一緒に悪戦苦闘する場面も多く見受けられた。だが、苦労のかいもあって、何とか予定の時間内にほぼ全員のラジオから音が出てきた。

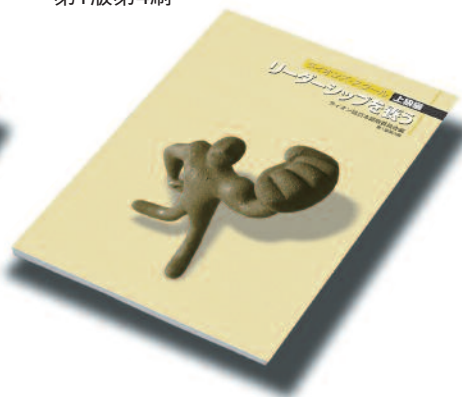
今回製作したキットはICを二つ使った基板に部品を8個差し込み、配線を端子に取り付けるものだ。ラジオの構造は単純だが、人数が多く、個人差もあり、予定していた時間の倍もかかった。しかし、「おっ、演歌が聞こえる」とはしゃいで喜ぶ子や「難しかった」と漏らす子の顔は皆輝いており、とても印象的だった。

今後は薬物についての話なども聞いてもらえるようお願いした。南大分小学校を対象に継続したアクティビティが出来ればと思う。

（会長／田上昭雄）

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第3刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第2刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100〜499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………　部
●クラブ運営の基礎知識 …………　部
●リーダーシップを養う …………　部

●創刊55周年記念特別セット…………　セット
（『ウィ・サーブ』『ライオニズムよ永遠に』『ライオン誌日本語版創刊号復刻版』の３冊入り）

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●**投稿要領**：会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

東日本大震災から試行錯誤の1年間

松本　宏平（愛媛県・今治くるしま）

◆垣間見たライオンズクラブの弱点

「あの日」から1年3カ月――。

東日本大震災の被災地に対して、ライオンズクラブは何をしてきたか、ということに関心を寄せてきた。テレビ、週刊誌、インターネットなどで関連するニュースや記事をちょこちょこ見ながら、一方で何人もの人から話を聞いた。現地にも2度行かせてもらった。そして、いざという時にライオンズに何が出来るのか思考を巡らせるものの、いまだ悩みの中にいる。が、反省を込めて、今の考えをまとめてみた。

東日本大震災発生から中1日で行われた第2リジョンの合同例会。ゾーンの全員が集まるという絶好の機会に、私たちは何もしなかった。何か出来ることを考えようという議論すら出なかった。

あの時、私は「こんな時になんもせんでええんやろか」と、周りの顔色を眺めていた。もしかしたら、あの場にいた多くの人がそんな気持ちだったのではないだろうか。

だとしたら、ライオンズクラブは組織としてもう衰退期にあると言っていい。本来すべきことが分かっていながら「指示がないから」「誰かが」というような考えが蔓延しているならば。

ここに今のライオンズの弱点がある。

◆「自分の役割は何か」を考える

私たちはあの時のことを反省しなければならない。それが問題を改善していくことにつながるからだ。一番欠けていたのは、有事の際に「自分は何をしなければいけないのか」を考えること。ライオンズの役職は1年ごとに変わる。だから1年ごとに自分の役割をよく認識しておくことが重要だ。会員、クラブ三役、ゾーン、リジョン、そしてキャビネットとして、いざという時に絶対に忘れてはならない役割がある。

◆ライオンズクラブと会員の存在意義

あの時、それぞれが自分の役割を果たしていたらどうなったか――。

震災発生から数時間で、地区ガバナーはキャビネットを通じて地区内全クラブに緊急メッセージを送る。その時点で分かる範囲の情報と、今後、日本中のクラブに求められるであろう支援に対する準備と心構えだ。

それを元にリジョン、ゾーンでは、各クラブ会長らと緊急の協議を持ち、意思の共有を図る。会長は自クラブで具体的なアクティビティを検討する。会員は執行部の判断材料となる情報を手分けして集める。長期的アクティビティはその後の推移を見ながら判断するとし、今出来ることからすぐに行動を起こす。この間、長くても2日。街頭募金くらいならすぐに始められた。

震災発生から2～3日後という時期

は、世間の関心は震災一色。ここでどの組織よりも早くアクションを起こすことは、実に大きな意義がある。大きな成果を上げる以上に、ライオンズの存在意義を市民に示す機会にもなる。

◆ライオンズとしての心構え

今後30年以内に6～7割の確率で、南海トラフを震源とする地震が発生すると言われている。被害は甚大かもしれないし、私の住む今治周辺はそれほどひどくないかもしれない。いずれにしても私たちは、まずは一個人として、次に家族を守るものとして、そして会社と社員を守るものとして、更にはライオンズの会員として、否が応でも動かなければならないのだ。

有事にはまず「その瞬間の自分の役割は何か」を考え、動く。状況が変わればまた、その時の役割を考え動く。過去の反省の上に立ち、ライオンズとしての心構えさえ持っていれば、瞬発力のある奉仕はきっと出来るはずだ。

◆地域と共に有事に備える

今、今治市では自治体ごとに自主防災会が結成され、防災研修会が頻繁に開催されている。東日本大震災以来、今治市民の防災意識も次第に高まりを見せている。「今度は私たちの地域が被災地になる」という心構えが浸透し始めているのだ。

私たちライオンズも、今治市民として防災意識を共有すると同時に、ライオンズ・メンバーとしての役割を、もう一度強く認識しておく必要がある。

東北女性フォーラム開催

小泉 知加子（宮城県・仙台青雲）

9月30日（日）TKPガーデンシティ仙台において、332・C地区グローバル会員増強チーム（GMT）企画による、332複合地区東北女性フォーラムが開催され60余人が参加しました。仙台東ライオンズクラブのライオン木口順子が司会を務めました。

田畑英伍332複合地区議長は、「今回初めての企画。長澤千鶴子333・C地区ガバナーはご講演で、女性メンバーの必要性と重要性をお話してくださると思います。私もこれまでの経験からライオンズには女性の力が絶対に必要だと常々思っております。これからの女性の力に期待しております」と話され、続いて佐藤義則332・C地区ガバナーは「女性の立場で奉仕活動を考えることをぜひ皆様にご理解頂きたいと思い開催致しました。女性でなければ気付かないことがあります。今日のお話を聞いて各クラブで活動に生かしてほしいと思います」とあいさつしました。

長澤ガバナーは「これからのライオンクラブの活性化は私たち女性の手で」をテーマに基調講演をされました。

「ライオンズクラブ95年の歴史の中で女性会員が誕生して25年になります。これまで男性が築き上げてきたライオンズを、今こそ女性がしっかりと力強く支えていかなくてなりません。日本の女性会員（11％）を世界レベル（26％）にしたい。女性会員増強のために、女性会を月1回開催、クラブ支部の活用、少数クラブの底上げなどを行っています。また若手会員増強においては、横のつながりを持ってもらおうと青年アカデミー委員会を立ち上げました。年4回たくさんの方と交流し、ライオンズのすばらしさを見つけ、それをライオンズ以外の方々に伝えて、仲間を増やしていこうと考えています」

続いてワークショップが行われ、まずペアを組んでの他己紹介。それから「女性会員のおかれている現状について（女性会員から見たライオンズクラブの問題点等）」「会員増強（特に女性会員増強）について」「女性ならではのアクティビティについて」話し合い、グループごとに発表しました。

「活動目的や奉仕活動の内容を明白にして周知させる。広報を利用しアピールする」「継続し定着化するためにも魅力ある活動を」「女性の細やかな心、子どもを大切にする心へライオンズの目を向けていく」「ネットワーク作りが上手な女性が呼び掛けて他団体と手を結んでライオンズの活動を広げ、女性の得意分野として『子どもたちのためのアクティビティ』を大切に活動していく」等々。模造紙にまとめて書くという発表方法も分かりやすく、私も一気にライオンズクラブの内容を把握したように思いました。

長澤ガバナーが総評を述べました。

「皆さんすばらしい発表をありがとうございました。支部の設置について、かなりご理解頂いたかと思います。ライオンズクラブは世界一の奉仕団体です。献金は全て奉仕活動に使っています。会員増強すればクラブは活性化し、クラブ運営もやりやすくなり、やがて皆様のアクティビティにつながります。各クラブが特徴を生かし、地域に密着した奉仕活動をして、これからのライオンズの活性化につなげて頂きたい」

この後、当地区若手会員の方たちとの合同交流会（懇親会）が行われ、盛会のうちに閉会となりました。

「Ｗｅ Ｓｅｒｖｅ」――。地域への奉仕活動を我々から――。今回の東北女性フォーラムに参加することが出来て、本当に良かったと思いました。

イラスト／小川和政

結成55周年記念家族旅行

田積 司（大阪イースト）

大阪イーストライオンズクラブは、おかげさまで本年チャーター・ナイト55周年を迎え、周年行事として記念家族旅行会と記念チャリティー・クリスマス・コンサートを企画しました。

旅行会は10月8日に長崎へ。史蹟料亭花月（卓袱（しっぽく）料理）で昼食後、平戸の国際観光ホテル旗松亭（きしょうてい）にて第1312回例会振替の記念家族旅行会晩餐会を開催。翌9日は松浦資料博物館を見学し、四海楼（長崎ちゃんぽん発祥の店）で昼食。長崎市内で籠町の蛇踊など「長崎くんち」を見学、グラバー園を散策して旧自由亭喫茶室で休憩後、長崎空港から帰阪しました。

初日の史蹟料亭花月では、同料亭の馬場馨社長が長崎みなとライオンズクラブ所属で337・C地区名誉顧問と判明。時間がなくごあいさつもそこそこに失礼したものの、周年記念旅行らしいサプライズで、今後に期待が持てる幕開けとなりました。また、料亭の床の間の柱にある坂本龍馬が付けた著名な刀傷は、しっかり確認させて頂きました。

その後平戸に向かいましたが、平戸の有名ホテル旗松亭で我々を迎えてくださった方は、当クラブ・メンバー（ライオン）川瀬清のご学友で、当日の例会振替晩餐会でご講演頂く松浦章氏でした。同氏は代々平戸城主を務めた松浦家の第

41代当主で、第34代当主松浦静山氏のご令孫慶子氏は明治天皇のご生母というお家柄のお殿様です。一同恐れ多く感じておりましたが、松浦氏は気さくにマイクロバスで平戸をご案内してくださいました。高倉健主演の佳作映画『あなたへ』のロケ地の漁港や食堂を訪れ、ワクワク気分の島巡りでした。

晩餐会では、ユーモアあふれる松浦氏のご講演をちょうだいし、ご令室もご一緒に、楽しく食事と歓談をさせて頂きました。その中で「まだまだ平戸の魅力が全国に広められていない」というお話から、「当クラブもライオンズ・メンバーを通じて、平戸のすばらしさを全国に向けて大いに発信したい」と大風呂敷を広げてしまいました（本稿がその一助になれば幸いです）。

翌日は、その松浦家や平戸の歴史が、数多くのすばらしい書画骨董と共に紹介されている松浦資料博物館にご招待頂き、松浦章氏や館長のご説明を頂きながらじっくりと見学致しました。道中、「ライオンズクラブの歌」を作詞された平戸出身の詩人・藤浦洸氏の歌碑に向かいました。平戸城にある、「ライオンズクラブの歌」歌碑建立委員会が建てられた、2頭のライオンが雄々しく地球を支えている歌碑の所までは、あいにく時間の都合上足を延ばせず、遠くから望むことで思いを募らせました。次に平戸を訪れる時はぜひとも訪れたいと思います。

その後、長崎市内では、待望の「おくんち」、それも籠町の蛇踊りを、黄金の玉を追いかける蛇を間近で見ながら楽しませて頂きました。

長崎はさすがに坂が多く、若いメンバーが80代の参加者に手を差し伸べ、エスコートする姿は誠にほほ笑ましく、優しさあふれる当クラブの面目躍如というところでした。

あっという間の2日間でしたが、55周年旅行会にふさわしく、今後のライオンズ活動の更なる意欲を高めてくれる、多くの出会いを頂けた旅行となりました。

12月13日のいずみホールでのチャリティー・クリスマス・コンサートも多くの出会いを得て成功することを祈念します。がんばるぞ!!

老獅子の独り言

須川　市朗（和歌山県・新宮）

4月号「獅子吼」でライオン鳥谷哲弘の「愛するライオンズを憂慮する」を拝読し同感しました。

私の所属クラブは和歌山県の南部、三重県との県境を流れる熊野川河口に位置する新宮市にあります。1961年結成、今年2月に50周年の記念式典を挙行しました。

結成当時私は28歳でしたが、期せずして初代、2代の幹事を務めることになり、その後は会長、リジョン・チェアパーソンを拝任。現在は5人しかいないチャーター・メンバーの一人として、若いライオンたちと好きなゴルフや飲み食いを共にして気ままにライオンズ・ライフを楽しんでいます。

去る9月13日にガバナー公式訪問があり、菅春水地区ガバナーから、会員数日本一を誇っていた335・B地区（大阪、和歌山）だが、ついに336・A地区（徳島、高知、香川、愛媛）に追い越されそうだと、会員増強プログラム「1割パワーアップ作戦」への強力な要請が各クラブにありました。

でも考えてみますと、四国4県の人口約400万人に対し、大阪府約886万人+和歌山県約100万人ですから、人口がほぼ半分の336・A地区と拮抗する現状には疑問が生じます。

私の町、新宮市は人口約3万2千人でメンバー数70人ですから、その割合だと大阪府だけで2万人近くの会員がいなければなりません。しかも地域的、経済的に恵まれた大都市だけに、現在の大阪府の会員数には納得出来ません。

追い越されることを心配する前に、336・A地区の増加理由をしっかり検証し、我々の地区に足りないところがあれば、それを見習う必要があると思います。

当クラブが産声を上げた50年前の会員数は日本全体で1万5千人ほどでした。最盛期の92年度末は3081クラブ、16万8038人、1クラブ平均61・4人。当地区は163クラブ1万1253人、1クラブ平均69人が在籍していました。

ところが本年8月末現在180クラブで5519人、平均30・6人と、20年で半分以下になってしまいました。

それはなぜか？　単に政治の貧困や経済状況の悪化だけでなく、やみくもに会員増強を推し進めたばかりに質の低下を招き、ライオンズに魅力が無くなったことに要因があると考えます。

近頃は例会日やクラブの行事にだらしない服装の会員が多くなってきたように感じます。人を外見で評価すべきではありませんが、私のような古い人間は、クールビズも分からぬではないが、時と場所によりそれなりのきっちり感を求めてしまいます。ただし、現役で家族を支え、多忙のために作業着のまま例会に駆け込み出席するというのは大いに歓迎すべきと思います。とにかくライオンズ・メンバーであるという誇りを持ち、モラルとマナーを守り、少々品性を保持してほしいものです。

また、ガバナー公式訪問は一般会員がガバナーと接する年に一度のチャンスですが、最近はガバナーの高い目標とスローガンを掲げたあいさつのみで、会員との対話が無くなってしまったように感じます。もう少し田舎でがんばっている会員のニーズに応え、生の声をくみ上げてほしいと思います。

3月号「獅子吼」ではL皆川春安の「テール・ツイスター参上」に感銘を覚えました。ガバナー経験のある、81歳のL皆川がテール・ツイスターを引き受け、毎回趣向を凝らして例会を盛り上げておられる様子が目に浮かび、実に感服致します。

私も十数年前にテール・ツイスターを買って出た経験があるのですが、想像以上に重要な役職で、大変苦労したものです。その際、神戸六甲（現・神戸六甲ポート）ライオンズCのL太田好雄が、テール・ツイスターとして活躍された時の資料をちょうだいし、とても助かりました。その後、平成19年にもL太田が足で収集した参考資料を送付頂き、ご指導を賜りました。

私たちの新宮ライオンズCの平均年齢は62・4歳ですが、地区で最も遠隔地に在りながら会員数が多く、団結力があり、ドネーションが積極的で、したがってアクティビティが活発であるなど、自慢出来ることがたくさんあります。しかし、自分たちの血気盛んな時代とは何かが違う、言葉で表現出来ない違和感について、古いメンバーと語り合う今日この頃です。これも自分が重ねてきた年のせいでしょうか。

最後に、昨年9月、当地方は台風12号による水害で甚大な被害を受けましたが、全国のクラブ、メンバーから物心両面で温かい多大のご支援を頂き、これぞライオンズだと改めてメンバーとして意を強くし、誇りを感じました。熱き友情に心から感謝申し上げます。

Close up

懐かしの味を讃岐一のB級グルメに

■鈴木英司

すずき・えいじ　1968年香川県高松市生まれ。2008年、高松東ライオンズクラブ入会。今年度クラブ幹事。子どもの頃に食べた懐かしの味を再現した「かっしゃ焼」で、2010年の第2回讃岐B級グルメコンテストのグランプリに輝いた他、三重県松阪市で開かれた地域ブランドサミットの「ご当地グルメNo.1決定戦」でも総合第3位に輝いた。

「かっしゃ焼」は、小、中、高校時代の思い出の味なんです。家の近所の、ことでん長尾駅前の店で、おばあちゃんが一人で作っていて、学校帰りに毎日のように寄っていました。そこの店にしかなかったから、きっとオリジナルだったんですね。最後に食べたのは高校を卒業した頃だったか、そのうちにおばあちゃんが年を取ってしまって、店は随分前になくなりました。

食べたら分かると思いますが、病みつきになる味なんです。見た目はたこ焼きそのものですが、中に入っているのはカレー味の鳥肉です。讃岐はうどんが有名ですが、「骨付鳥」も人気でよく食べるんです。骨付きの鳥もも肉を焼いたものですが、親鳥とひな鳥があって、親鳥はうまみがしっかりとした通好みの味。タコのように噛みごたえがあります。かっしゃ焼に使うのはその親鳥で、生地には刻んだキャベツが入っています。

20年以上前に食べていたあの味が忘れられなくて、復活させようと思い立ったのが今から7年前。子どもの頃に作り方を見せてもらったことはありますが、材料の配合までは教わっていませんから、水の量やら、塩加減やら、いろいろと試してみて、やっとこれだ！と思える味にたどり着きました。おばあちゃんの店では「かしわ焼き」という名前だったんですが、友達と「かっしゃ焼、行こうでー」と早口で呼んでいたのを、そのまま名付けたんです。

もともとは自分が食べたくて始めたので、店は開けたり閉めたりしてたんですが、一昨年、第2回讃岐B級グルメコンテストに初めて出て、いきなりグランプリを取ってしまった。それでテレビにもよく出させてもらったし、取材で女優さんやらにもよく会いましたね。おかげで知名度も上がって、週末にあちこちで開かれるイベントへの出店が増えました。

どれが本業というわけでもないんですが、平日は主に土木関係の仕事をして、土日はイベントでかっしゃ焼を焼いてと、休みなしです。地元の高校を卒業してホテルのフロントマンになってから、これまでに20以上の職業を経験して、免許資格も15ぐらい取りました。我ながら、なかなか面白い人間だなと思います。

取材／河村智子

元祖
勝者焼
見た目はたこ焼
中身はカレー味の
グランプリ受賞

おすすめの
ippin

佐賀県嬉野市
温泉湯豆腐

温泉湯豆腐は九州の名湯・嬉野温泉の名物料理。嬉野の湯で豆腐を煮ると、表面が溶け出し煮汁が豆乳色に変わる。角が取れ、とろとろになった豆腐を、薄い塩味が付けられた煮汁と一緒にすすると、柔らかい食感とまろやかな味が堪能出来る。

嬉野温泉の湯はナトリウムを多く含む重曹泉で、非常にぬめりがあり、角質化した皮膚を滑らかにする。近年、その弱アルカリ性のお湯が肌をつるつるにするとして「日本三大美肌の湯」にも選ばれ注目されているが、この泉質が独特の温泉湯豆腐を生み出す源ともなっている。

発祥の店と言われる「宗庵よこ長」は温泉街の中心部にある。初代が、豆腐を温泉水で炊くと、とろけるような食感になることに着目し、料理に活用したことが始まりだという。昭和32年のことで、以来、直営豆腐工場「豆匠よこ長」で嬉野産大豆100%の豆腐を作り、こだわりの湯豆腐を提供し続けている。

●「宗庵 よこ長」佐賀県嬉野市嬉野町下宿乙2190

❖京都府 城陽市❖

水に恵まれ、金銀糸で華やぐ 五里五里の里

文／砂山幹博 写真／田中勝明

漆を塗った和紙に一枚一枚金箔を貼り付けていく大石箔押加工所の大石孝さん

西陣の雅を彩ってきた職人の技は、先端技術との融合により多色化と量産化を実現。衣服はもちろんインテリアや織物、生活雑貨に至るまで、金銀糸の活用分野は広がり続けている

城陽 JOYO

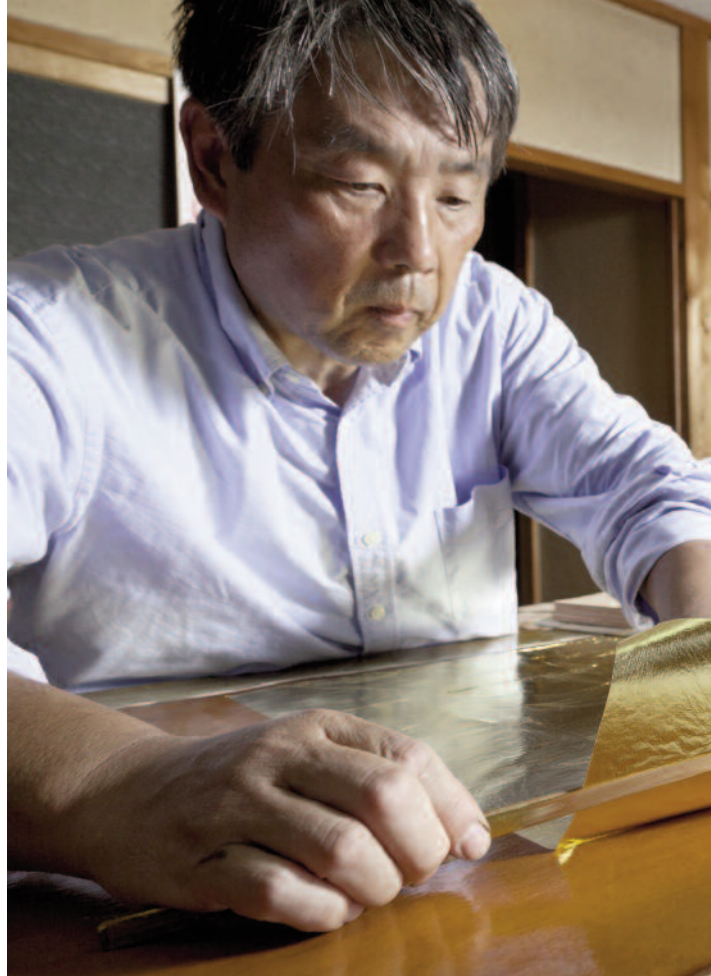
京都府 城陽市（じょうようし）
京都市と奈良市のほぼ中間、山城盆地の中央部に位置し、東部丘陵地から木津川が流れる西部地域にかけてなだらかに広がる都市。
市域／東西9.0km、南北5.4km、総面積32.74平方km
総人口／78,791人（2012年11月1日現在）

地下水と西陣の恩恵で発展した地場産業

京都を代表する伝統工芸の一つ西陣織や、京都祇園祭の山鉾（やまほこ）を飾る緞帳（どんちょう）がキラキラと輝いているのは、ラメ糸とも呼ばれる金銀糸が使われているため。この金銀糸の製造で、国内生産量の約8割を占めるのが城陽市を中心とする南山城（みなみやましろ）地域だ。

もともとは職人の手で和紙に金箔（きんぱく）や銀箔を張り、細長く切ったものを綿や絹の芯糸に巻き付けて作るものだったが、1960年頃から化学繊維による機械化生産が主流に。現在作られているのは、ポリエステルフィルムに銀、もしくはアルミニウムを特殊な技術で付着させ、色彩豊かに着色したものだ。機械化で大量生産が可能になったことで、和洋を問わず衣料や装身具、インテリアや生活雑貨の素材などとしてさまざまな分野、用途で金銀糸が使われるようになった。面白い所では自動車のシートや、商品券等のホログラムの素材として利用されている。

一方で、高級品には現在も和紙に金箔を押して作る伝統的な本金糸（ほんきんし）が

丹後地方に伝わる伝統的な染織技術「高蔵染」のスニーカーとのコラボレーション事例。大胆な手染め模様に、燦彩糸100%の靴ひもが映える
▶城陽商工会議所（TEL.0774-52-6866）

京くみひもの伝統工芸士が本金糸100%で組み上げた「本金ストラップ」。1本48,000円（税込）
▶城陽商工会議所（TEL.0774-52-6866）

しばしば使われる。本金糸の製作現場を見せてもらうと、和紙に漆を染み込ませ、完全に乾く前に丁寧に拭き取る作業が行われていた。和紙に箔押しする際、漆は接着剤の役割を果たす。漆の乾燥には適度な湿度が必要なのだが、城陽は宇治川と木津川の合流地点で水が豊富であるため、生産に適している。また、市域の地下には琵琶湖の水量に匹敵するほどの地下水が溜め込まれていると言われ、昔から飲み水以外にもさまざまな用途に活用されてきた。

話は少しそれるが、市内の城陽酒造では1895年創業以来、この地下水を汲み上げて酒造りをしている。南東の青谷エリアは砂利質で、雨が地面に染み込む際に、この砂利が天然のろ過器となって良い軟水を作るのだという。また、青谷には20ヘクタールの梅林が広がり、2〜3月にかけ約1万本の白梅が咲き誇り、辺り一面、大きな白布を広げたように白一色となる。

ともあれ、掘ればすぐに水が出るため、箔押しにはうってつけの場所であった。明治の終わりから大正時代にかけて、箔押しや糸撚りの職人らがこの地に集ったことで、地域で一貫して金銀糸を生産出来るようになり城陽は金銀糸の町になった。また、城陽は京都から五里（約20キロ）、奈良からも五里の距離だったことから「五里五里の里」と呼ばれる。金銀糸の大消費地である京都の西陣にも比較的近かったため、その発展と共に織物を彩る金銀糸の産地として大いに栄えた。

金属メッキが施されたポリエステルフィルムを、幾重にも重ねた刃に通して細い糸状にカットするマイクロスリットの工程
（撮影強力：泉工業株式会社）

新たなニーズを創造する燦彩糸プロジェクト始動

洋服が一般化し、着物離れが進むと金銀糸の国内需要は冷え込み、長く停滞を続けているが、その可能性は海外に開かれている。京都金銀糸振興協同組合の家村覺理事長によると、城陽で生産される金銀糸の約7割は主にヨーロッパやアメリカ、中近東方面へ輸出されている。特に中近東では民族衣装用として、きらびやかな日本の金銀糸が好まれているのだという。

組合が伝統産業としての金銀糸の存在を守り伝えていく一方で、新たな分野を開拓する動きも進行中だ。城陽商工会議所が主導する燦彩糸プロジェクトは、和装業界以外の新しい用途開発を模索し2005年に立ち上がった活動だ。

「もともと西陣から仕事をもらい、糸に加工し西陣へ返すという仕事を続けて来ましたが、和装業界全体のニーズも落ち込み、10年、20年先には金銀糸が作れないようになるのではないかと職人が本気で考え始めたのがきっかけです」

燦彩糸プロジェクト実行委員長の竹村信行さんは当時をこう振り返る。加工は得意だが、これまでユーザーの目に直接触れるようなものを

南東の丘陵地に広がる青谷梅林で採れる大粒の固有種「城州白」をじっくり3年間熟成させ、そのまま瓶に詰め込んだ原酒。漬け始めの頃のアルコール臭は消え、代わりに濃密なまろやかさが引き出されている
▶城陽酒造株式会社
（TEL.0774-52-0003）

毎年6～7月にかけて青谷梅林全体で120トンの梅が採れ、その約半分が城州白。収穫された3分の2が城陽酒造に入荷し梅酒になる。「清酒やブランデーなどいろいろ試したが、城州白の風味を最大限生かせる点でベースにはクセのない焼酎甲類を選んだ」と話す城陽酒造の島本稔大社長

作る機会に恵まれなかった。材料でしかなかった金銀糸の存在感を商品化によって変えていきたい。プロジェクトには職人たちのそんな思いが込められている。

商品化して売り出すに当たり、金銀糸に燦彩糸というブランド名を与えた。「キラキラ奇麗な糸＝城陽の燦彩糸」というイメージ戦略を重ねた末、知名度も徐々に上がってきた。現在は、プロデュース・バイ城陽と銘打って、アクセサリー作家や布地メーカーなど他分野のコラボレーション先に対して、モノ作りの提案や素材提供を行っている。京くみひもの技術で編んだ本金ストラップもそんな中で生まれた商品だ。09年に中小企業庁による新たなブランド育成事業「JAPANブランド」に認定されたことで、今後は海外に向けての展開も視野に入れている。

▼取材協力クラブ
城陽ライオンズクラブ（栗田尚典会長／28人）＝1964年12月13日結成／スポンサー：京都乙訓ライオンズクラブ／地面の下にたくさんの古墳が眠る土地柄であり、毎年10月中旬に「歴史を歩く」と題して市内の古墳や遺跡をハイキング形式で巡る学習イベントを実施。小学生らに城陽が「古墳のまち」であることを再認識してもらっている。

今月のうまいもん

ちょんまげに隠して持ち込まれた城陽の名産

寺田いも

サツマイモといえば、享保の大飢饉（1732年）の際、将軍徳川吉宗に栽培を進言した青木昆陽が有名だが、これより十数年も前に南山城にサツマイモを普及させた人物が、現在の城陽で薬種問屋を営んでいた嶋利兵衛だ。幕府禁制の薬草を扱った罪で琉球鬼界ケ島に流されていた利兵衛は、1716(享保元)年に赦免されて帰郷する時に髪の毛の中にサツマイモの苗を隠して持ち帰り、その栽培普及に努めた。これが城陽名産の寺田いもの起源だという。木津川沿いの荒州地区の砂地で作られる寺田いもは、味・色・形の三拍子がそろった、栗のようにホクホクしたサツマイモだ。

城陽ライオンズクラブの事務局は新築の一軒家。40年以上前から貯めていた資金を元に、建築関係のメンバーらの力を借りて2012年6月25日に竣工したばかり。1階は事務所で、2階は例会場となっている。例会での食事や飲み物は自前で用意しなくてはならなくなったが、ホテルや飲食店に頼らない分、運営コストも大きく抑えられると好評だ

読者から――11月号

■日本で出来ることが

日本は識字率が高く、国際会長テーマの「リーディング・アクション・プログラム」はあまり関係のないことと思われがちだが、THEMEの記事で、プログラムには幅広い内容が含まれていることが読み取れた。日本において必要なこと、出来ることは何かを考える参考になる内容であった。また、やはり全世界的な問題として、今後ますます変化するニーズに対応出来るような情報リテラシーの必要性を、改めて認識した。

兵庫県・神戸みなとライオンズクラブ●松本晃一

■深刻な情報リテラシー

「リーディング・アクション・プログラム」について、いわゆる識字は日本ではあまり問題でないと考えていましたが、在日外国人とその子弟との関わりは文化交流も含んだ大きな問題であるとの指摘が参考になりました。また、情報リテラシーの問題も取り上げられているのに感心しました。これは非常に大きな問題です。日本では、障害者と健常者との格差もそうですが、若者と中高年との間のデジタル情報取り扱い能力の格差が開いていると思われます。デジタル機器が使えないことによる圧倒的な情報量の差は、社会問題化してくると思います。

広島鯉城ライオンズクラブ●宮川信彦

■人の喜びを自分の喜びに

「国際会長公式訪問」の文中にあった「一緒に集まることは始まりであり、一緒に続けることは進歩であり、一緒に働くことは成功である」という自動車王フォードの言葉は、今のライオンズ会員が忘れかけていることのように思いました。奉仕こそがライオンズであるのに、自ら進んでアクティビティに参加する人が少なくなってきています。奉仕することに喜びを感じ、人の喜びが自分の喜びと思えるよう、初心に帰ることが求められています。

熊本県・城南ライオンズクラブ●土肥康信

■日本ライオンズの誇り

「獅子吼」は、初めて知ることが多く、大変興味深く読ませて頂いた。日本人の国際会長はライオン村上薫だけと認識していたが、国際第1副会長だったライオン小川清司がおられ、道半ばで急逝されていたことを驚きと共に知った。このようなライオンが日本におられたことは、大変励ましになった。また、法人化について度度問題提起がされているが、賛否両論が掲載され、それぞれ具体的でよく理解出来る内容であった。

北海道・富良野ライオンズクラブ●鈴木敏文

●ライオン誌事務所来訪者芳名録

11・8 モンゴル・ヘルレン ウラン・チメグ
11・8 東京渋谷 中野 了
11・20 富山県・高岡フラワー 筏井 春夫
11・21 宮城県・仙台青葉 平嶋 敬義
11・22 愛知県・幸田 尾山 剛
11・22 愛知県・幸田 山本 冨夫

読者プレゼント

■「希望の灯り」瓦せんべいを10人に

クラブ・リポート(34ページ)で紹介した岩手県大槌町の「希望の灯り瓦せんべい」(梅香堂・12枚入り)を、10人の読者にプレゼントします。瓦せんべいには、地元のNPO法人「まちづくりぐるっとおおつち」が提供してくれた、大槌のシンボル「ひょうたん島」のデザインが刻印されています。この商品は定価525円で、そのうちの210円が、東日本大震災の犠牲者を追悼し、被災地の復興を祈願するため、敦賀みなとライオンズクラブと大槌ライオンズクラブが合同で建立したモニュメント「希望の灯り」の維持管理費に充てられます。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「希望の灯」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は1月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階　ライオン誌事務所

＊オンライン応募は、ライオン誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp)の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答回答〉第1問=c.／第2問=a.／第3問=b.／第4問=c.／第5問=a.

もう一度読みたい「あの記事」

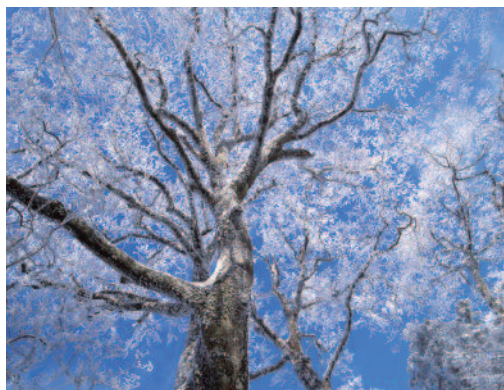
『ライオン』誌バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

●1986年12月号　ライオンズ通り

「ライオン誌を読む例会」

辻井光重（岐阜県・高山ライオンズクラブ）

クラブ幹事の時から、例会の在り方について随分と心を砕いてきた。

私のクラブは例会出席率は常に95%を超え、メーキャップ出席を加えれば100%を20数年も続けている。極めて優秀なク

ラブだと自慢に思っている。しかし、例会時間が限られているために、会長のスピーチや、幹事、委員長の報告事項に時間が取られ、委員同士の会話の時間が少なくなっているのが現状で、会員にとってはあまり楽しくない例会が多いようである。

会員各自が参加意識を高め、関心と興味を持てれば、もっと楽しい例会運営が出来るのではなかろうか。そこで今回、ライオン誌を読む例会を計画してみた。正直言って、ライオン誌は会員にあまり読まれていない気がする。役職を担当した年は精読するが、任期が終わると、また自然と読まなくなる。読まず嫌いの人が多いようである。

例会で食事をして、報告事項を聞いて帰るだけでは、だんだんとライオンズ離れの気持ちが出てきても仕方がない。自分の意見を発表し、賛成を得て、クラブの事業や方向を定めることが出来るようなクラブならばどんなにすばらしいだろうと、会員は思っているはずである。

クラブの最大の目的はアクティビティであるが、労力奉仕の場合、我がクラブではほとんどの会員が快く参加し、良い成果を上げている。しかし、金銭アクティビティはそれぞれの委員会が理事会に諮（はか）って独自で行うことが多く、事後報告だけを聞くことになる。

9月は「ライオン誌月間」であるので、第1例会をライオン誌を読んで参加する例会として、事前に会員に宿題を出した。

①9月号14ページの座談会「ライオンズ21構想」を熟読して例会に臨むこと

②必ず9月号を持参すること。忘れた場合はファイン

③必ず自分の意見、提案を持って来ること

一方、計画委員会側では、会長や地区役員経験者をパネリストに依頼し、ライオンズクラブは21世紀にはどうあるべきか、アクティビティの本当の在り方について、意見発表の準備をお願いした。いつもの例会で行われる報告事項は、全て例会プログラムに文書で印刷して、各自が読むように手配した。食事も先に配膳し、献立もあまり時間の掛からないものを準備して、座談会に最大限の時間が取れるよう計画した。

事業委員会を担当する第2副会長が司会を務め、例会は始められた。いつもの例会と違って、パネリストはそれぞれ非常に緊張された様子だったが、大変に立派な意見を発表され、また、指導力開発委員長からも参考意見が述べられた。

全会員は真剣に耳を傾けていたが、6人のパネリストの発表のみで時間切れとなり、残念ながら会員の発言の時間を持つことは出来なかった。会員も張り切って出席されていたのに、申し訳なく思っている。

しかし、これでやめては「仏作って魂入れず」になってしまうので、この例会の目的を達成するまで継続することにした。

第1段階として、全員がライオン誌を読んでくれたことだけは確かで、この計画はこれだけでも成功したものと信じている。

ライオン誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

何でも日本一

皆さんは所属クラブの平均年齢が何歳か、ご存じだろうか？

本誌調べ（12年9月実施クラブ・アンケート／有効回答1575）では、日本の会員の平均年齢は62歳。最も低かったクラブで34歳、最も高かったクラブで79歳だった。平均年齢が低かったのは、広島県・福山ニューセンチュリー（NC）ライオンズクラブの34歳を筆頭に、群馬県・高崎NC、山形県・新城NC、大阪NCの各新世紀ライオンズクラブ（結成から7年間は35歳以下の会員のみが参加）で、いずれも30歳代半ば。以下、過去10年以内に結成された歴史の浅いクラブが上位に並ぶ中、ひときわ目を引くのが結成52年目の兵庫県・伊丹ライオンズクラブの43歳だ。同クラブでは2010年11月の50周年を前にして、30歳代後半のメンバーの活躍で30～40代の新会員9人が入会。これを機にクラブは次世代交流会を発足させて若手の育成に力を入れ、理事や役員にも登用している。伝統あるクラブを継承していこうとする積極的な取り組みが、平均年齢を押し下げる結果になり、クラブを活気付けている。

この日・この月

1月13日はライオンズクラブ創設者メルビン・ジョーンズの誕生日。南北戦争終結から14年が経った1879年、騎兵中隊を指揮する陸軍大尉を父に、アリゾナ州のトーマス砦で生まれ、7歳までこの地で暮らした。全米のビジネス・サークルに呼び掛けて、ライオンズクラブを発足させた1917年、ジョーンズは38歳だった。

今月号の記事から

THEME（5～11ページ）は「福岡フォーラム」。日本語セミナーでは「明日のライオンズを考える～未来への提言～」をテーマに、各リーダーが10年後に向けた提言を語った。クラブでも同じテーマでディスカッション例会を開いてはみては？　明日へつながるビジョンが開けるかも。

★ライオン誌例会のノウハウを収めた「ライオン誌例会 開催ガイド」は、ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）「各種書式／ロゴ」のページでPDFファイルをダウンロード出来る。本誌バックナンバーはEブック形式で公開しているので、ご活用を。

クイズ de 例会

〈第1問〉2012年11月に日本で開かれた第51回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムの開催地は？

a. 横浜　b. 仙台　c. 福岡

〈第2問〉1952年に日本で最初に結成されたのは東京ライオンズクラブ。では、その次にクラブが結成されたのはどこ？

a. 横浜　b. 大阪　c. 神戸

〈第3問〉これまでに日本で開かれた国際大会は3回。2回開催の東京と、もう一都市は？

a. 横浜　b. 大阪　c. 神戸

〈第4問〉2013年7月5日～9日、第96回国際大会が開かれるドイツの都市は？

a. ベルリン　b. ミュンヘン
c. ハンブルク

〈第5問〉ライオンズクラブ創設者メルビン・ジョーンズが所属していたのはアメリカのどの都市のクラブ？

a. シカゴ　b. ボストン
c. ニューヨーク

★回答は54ページ下

LION

次号予告

THEME
ハンブルク国際大会情報

2013年7月に国際大会の舞台となるドイツ・ハンブルクの街と大会の概要を紹介。代議員投票の解説も。

ふるさと探訪 **鹿児島県指宿**（いぶすき）

薩摩半島の南端にある指宿市。美しい稜線を描く薩摩富士・開聞岳（かいもんだけ）を望み、名物の砂蒸し風呂を体験する。

足るを知る

ライオン誌
日本語版編集長
◉
小西宗仁
（千葉県・船橋）

新年は神秘と喜悦の贈り物とし感恩する。厳しい年明けとはいえ、年が改まることへの喜びと歓喜は格別と実感する。

景況低迷の今だからこそ、気高く前向きに生き抜かねばと希望も高まろう。しかし、交わされる会話は「景況低迷からの脱出、デフレからの脱却はいつ頃なのか」に終始する。

こんな時、戦前生まれの身には「欲しがりません。勝つまでは」の言葉がよみがえる。経済戦争を克服する舞台は再構築への挑戦であろう。日本にはまだ外国からの借り入れをせずにおられる潜在力がある。

いまだ惨状の中に置かれている被災地を、先頃巡察させて頂き、地元の方々から懇切な経過説明と復興への見通しを伺った。予想をはるかに超える復興の長期化に、改めて「知足安分」という教えを思い起こした。先の大戦で廃墟となった地で、人々はまず初めに何よりも食う物、着る物、住む家を求めて必死に汗された。足りないものばかりの中にあって、人間らしい暮らしの復活には多くの日時と試練を要す。しかし日本人の勤勉な努力で驚異的な復活が実現された。

あの戦後の極度の窮乏を実感した者は「足るを知る」ことの重さを実感している。

震災発生後、必死の思いで耐え忍ぶ多くの被災者の方々の救援が急がれる中で、私の住む街の実相はどうだったか。物資を求めて商店、スーパーに殺到し売り場のケースや棚は一瞬にして空になった。確かに先行きへの不安は理解出来るが、いたずらに買いあさる光景には「足るを知る」ことを忘れ、我欲に走った人たちの何と多かったことか。

今や日本では、他者を思いやる、惻隠（そくいん）の情、奉仕すなわち利他の実践は喪失してしまったのか。

日本には現世での生涯を出来る限り簡朴にし、心を風雅の世界に遊ばせることを人間の最も高尚な生き方とする文化の伝統があったことを今、改めて想起する。（仁恕）

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 20 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Flemish-French, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Icelandic, Greek, Norwegian, Turkish, Thai and Hindi.

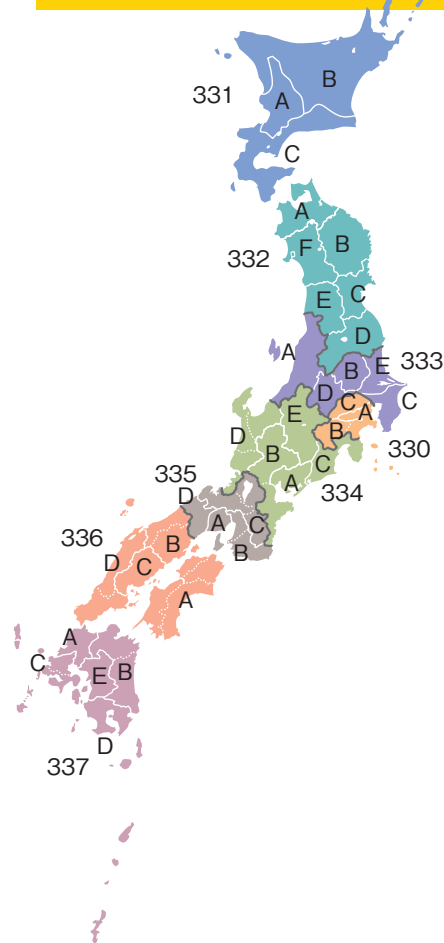
Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2012.11.30　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	期首からの増減
330-A	東京	203	5,007	4,290	717	13
330-B	神奈川·山梨·東京	176	4,888	4,271	617	-26
330-C	埼玉	94	2,306	2,062	244	1
330	計	473	12,201	10,623	1,578	-12
331-A	北海道（道央）	72	2,439	2,266	173	26
331-B	北海道（道北·道東）	89	2,492	2,363	129	40
331-C	北海道（道南）	53	1,784	1,595	189	18
331	計	214	6,715	6,224	491	84
332-A	青森	65	1,799	1,590	209	61
332-B	岩手	55	2,275	1,605	670	18
332-C	宮城	76	1,562	1,266	296	21
332-D	福島	76	1,958	1,765	193	14
332-E	山形	58	1,846	1,644	202	36
332-F	秋田	49	1,324	1,051	273	42
332	計	379	10,764	8,921	1,843	192
333-A	新潟	78	2,813	2,508	305	-10
333-B	栃木	53	1,491	1,097	394	19
333-C	千葉	138	3,470	2,903	567	31
333-D	群馬	54	2,078	1,690	388	23
333-E	茨城	77	2,815	2,535	280	69
333	計	400	12,667	10,733	1,934	132
334-A	愛知	122	5,252	4,700	552	65
334-B	岐阜·三重	82	3,955	3,306	649	485
334-C	静岡	82	3,111	2,981	130	4
334-D	富山·石川·福井	96	3,837	3,586	251	38
334-E	長野	52	2,013	1,791	222	30
334	計	434	18,168	16,364	1,804	622
335-A	兵庫（東）	95	2,317	1,993	324	12
335-B	大阪·和歌山	180	5,517	4,863	654	76
335-C	滋賀·京都·奈良	120	3,927	3,610	317	51
335-D	兵庫（西）	66	1,931	1,718	213	13
335	計	461	13,692	12,184	1,508	152
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	151	5,511	4,859	652	40
336-B	鳥取·岡山	96	3,086	2,796	290	39
336-C	広島	101	3,437	3,229	208	36
336-D	島根·山口	99	3,194	2,961	233	63
336	計	447	15,228	13,845	1,383	178
337-A	福岡·長崎	115	4,463	3,921	542	112
337-B	大分·宮崎	73	2,345	2,172	173	34
337-C	佐賀·長崎	84	3,089	2,587	502	1
337-D	鹿児島·沖縄	80	2,379	2,166	213	33
337-E	熊本	58	1,593	1,434	159	-8
337	計	410	13,869	12,280	1,589	172
総計		3,218	103,304	91,174	12,130	1,520
世界のライオンズの		6.9%	7.6%	8.9%	3.6%	

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2012.11.30　国際協会集計

ライオンズ国または領域	207
世界のクラブ数	46,672
世界の会員数	1,361,802
※男性会員数	1,028,381
※女性会員数	333,421
期首からの増減	14,417

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,187	344,759	-2,362
インド	6,288	224,373	8,186
韓国	2,117	82,313	958

第96回ハンブルク（ドイツ）国際大会

2013年（平成25年）7月5日～7月9日
投票日 7月9日

ハンブルクで会いましょう！

山田實紘国際第二副会長候補者支援委員会

L I O N S

Loyalty
忠誠心
すべての会員は、初心を忘れずライオニズムに忠節を尽くす。

Innovation
変革
常に新しい風を取り込み、奉仕を進化させる。

Organization
団結力
会員増強により団結力をより強化する。

Nobel Peace Prize
ノーベル平和賞
ノーベル平和賞をライオンズが獲得し、世界のメンバーがノーベル賞受賞者となる。

Service
国際貢献
LCIFを通じて国際貢献に寄与する。

経歴

334複合地区推薦
山田 實紘
やまだ　じつひろ

[所　属] 334-B地区2R2Z 美濃加茂ライオンズクラブ
[生年月日] 1943年12月23日
[住　所] 岐阜県美濃加茂市島町2-4-18
[職　業] 社会医療法人厚生会 木沢記念病院 理事長
社会福祉法人慈恵会 理事長
特定医療法人清仁会 のぞみの丘ホスピタル 理事長
学校法人あじさい学園 あじさい看護福祉専門学校 理事長
[学　歴] 日本大学医学部 1968年卒業 医学博士
豪州NSW州立チャールズスタート大学健康科学名誉博士

ライオン歴

1985年	美濃加茂ライオンズクラブ入会
1994年12月～1995年 6月	美濃加茂ライオンズクラブ会長
1996年 7月～1997年 6月	334-B地区ガバナー
2005年 7月～2007年 6月	国際理事[一年目：長期計画委員・国際大会委員] [二年目：執行委員・長期計画委員・国際大会副委員長]
2011年 7月～2012年 6月	国際理事会アポインティー

主なアワード 〈ライオンズ〉

1986年 メルビン・ジョーンズ・フェロー賞（1回目）
2012年 メルビン・ジョーンズ・フェロー賞（118回目）
1997年 地区ガバナー優秀賞
1998年 国際会長賞（パターソン国際会長）
2002年 国際会長感謝状（ムーア国際会長）
2005年 ヒューマニタリアンパートナー
2006年 国際会長賞（アショック・メータ国際会長）
2007年 国際会長賞（ジミー・ロス国際会長）
2007年 国際理事表彰アワード
2007年 国際親善大使賞
2008年 国際会長賞（アマラスリヤ国際会長）
2009年 国際会長賞（ブランデル国際会長）
2010年 国際会長賞（ヴィルフス国際会長）
2011年 国際会長賞（スクラッグス国際会長）
2012年 国際会長賞（ウィンクン・タム国際会長）

ライオン誌1月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2012年（平成24年）12月20日発行　毎月1回20日発行　第55巻第7号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社